

大宮町一丁目史誌



岐阜市大宮町一丁目自治会

大宮町一丁目史誌 刊行にあたって

岐阜市大宮町一丁目
自治会長 堀 達夫

私事から申して恐縮ですが山陰の小都市に生まれ育ち学校を卒業した昭和28年に岐阜県へ勤務、大垣から通う毎日を過ごしていました。

休日には折りを見て岐阜の町へ出掛け長良川のほとりを散策しながら金華山の素晴らしい景観に接し一度此の様な地に下宿することが出来ればと心当たりを探した事もありました。ところが縁あって昭和33年大宮町一丁目でお世話になる事となった次第です。

大宮町、それは明治22年7月1日の市政施行により富茂登村字裏町が改称され誕生した地であります。

東に金華山を北に長良川を背景に、岐阜公園は景観にも優れた山岳信仰の由緒ある地であり、歴史とロマンの宝庫大宮町一丁目は人情の厚い住み良い町でもあります。

爾来40年、サラリーマンとしての仕事も一段落したのを契機に、ここ数年地元への恩返しを含めて微力乍ら町内のお世話をさせて頂く事となりました。

ところが寝耳に水とは正しくこの様な事を言うのでしょうか。平成8年に入って岐阜市より岐阜公園再整備計画の一環として町内のシンボルとも言うべき天理教岐美大教会も含め大宮町一丁目の移転問題が提起されて参りました。

勿論、町内一同これに賛成するわけではなく天理教岐美大教会を除いて移転問題は凍結となり一先ず幕を降ろす事となりました。

現在町内に居を構えている私達にとって、この由緒あるしかも潤いと安らぎのある町を大切に保存し私達の次の世代へ引き継いでいくことは当然の役割で有り責務であると言わなければなりません。

大宮町一丁目の灯を決して消さない様に、かねてより町内有志により町史編纂の動きが出ていました。この公園再整備問題を机上に早急に編纂に取り掛かるべきではないかとの意向が自治会総会でも採り上げられる処となり、吉田尚弘氏を中心に進める事になった次第です。

吉田さんは仕事の合間をみて、しかも一時期健康を害されながらも巾広い人脈と深い造詣によって精力的に資料収集と執筆を重ねられここに刊行の運びとなりました。氏のご努力に対し心から敬意を表すると同時に此の町史の編纂にご協力を賜った多勢の方々に対し厚く御礼申し上げます。

大宮町一丁目史誌目次

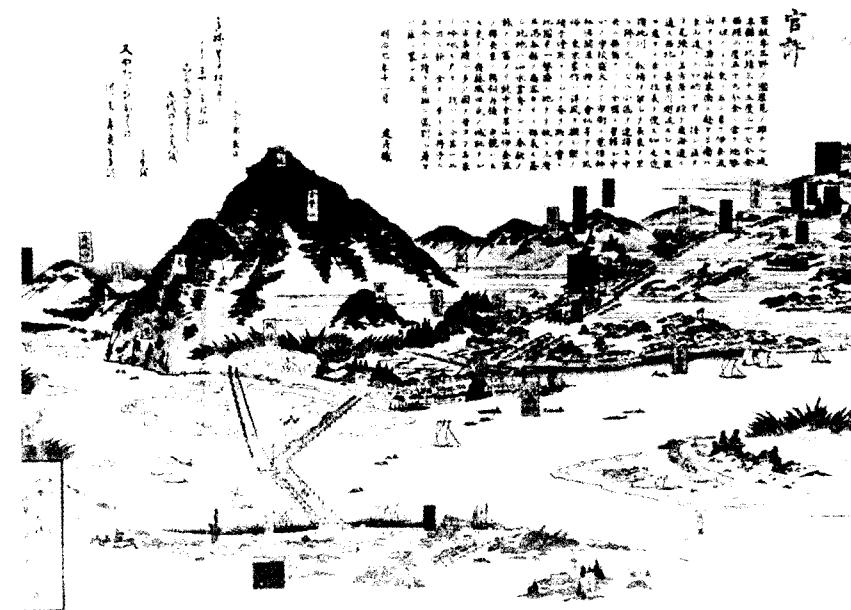
大宮町一丁目史誌刊行にあたって

1. 大宮町の誕生	1	
2. 大宮町一丁目の移り変わり	3	
(1) 人口の推移		
(2) 歴代の町内会長		
(3) 住んで居られた著名な方々		
(4) 住宅図の変遷		
3. 大宮町一丁目の主な出来事	11	
(1) 子供会の活動状況		
(2) 少年野球の始まり		
(3) 伊勢湾台風		
(4) 白宮水防團の編成		
(5) 集中豪雨による浸水記録		
4. 大宮町一丁目内外の主要施設	19	
(1) 金華山、岐阜城	(2) 岐阜公園	(3) 名和昆虫博物館
(4) 萬松館	(5) 武徳殿	(6) 三重の塔
(7) 水族館	(8) 児童科学館	(9) 天理教岐美大教会
(10) 金華山ロープウエー	(11) 岐阜市歴史博物館	
(12) 加藤栄三、東一記念美術館	(13) へそのお神社	
(14) 中教院	(15) 板垣退助の銅像	(16) 長良橋
(17) 金華小学校		
5. 私達の思い出	44	
(1) かんかばあ	(2) 金華山は燃料とおやつの宝庫	
(3) もみじや	(4) キューバ糖	(5) 紙芝居
(6) 八百屋の惣さ	(7) 空襲警報避難	
(8) 岐阜公園の駄菓子屋さん	(9) ロボット水門が無くなる？	
(10) 躍進日本大博覧会	(11) 金華山トンネル計画 大宮町一丁目は反対	
(12) 岐阜市巡覧唱歌	(13) 大岩石何処から来たの？	
(14) チンチン電車（岐阜市内電車）		
大宮町一丁目史誌編集を終えて	50	

1. 大宮町の誕生

明治7年に出版された岐阜町全景図（藍川亭蔵版）でも岐阜の息吹きが感じられる如く長良川の水路は南は中山道沿いの加納の里に隣接し、尾張の名古屋を経て東海道に通じる往来の便良しと記されている。

長良川の水路を利用して大型船が元浜町、港町を拠点として米や織物、紙、木材、土管等を積み込んで郡上、美濃、岐阜、桑名の間を上り下りして繁盛した所であった。



岐阜町絵図（藍川亭蔵）

これに伴い商人、職人、大工、木挽き等の住居が次第に増えて金華山麓の未開の地にも手が入り、材木商が不況の時を選んで大工や職人の救済対策として貸家の増築を行った。

中には豪華な高級住宅もあり転勤の多い名士達が好んで利用した。

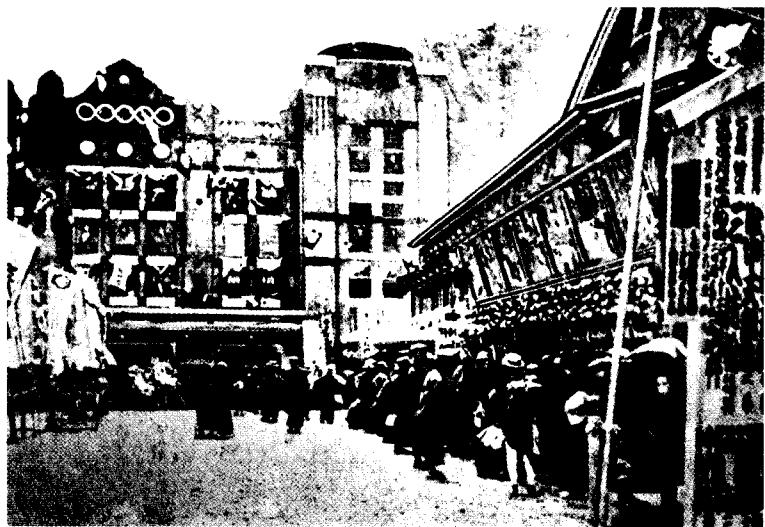
人口の増加に伴い岐阜が美濃一番の商業地として繁盛しつつ交通、運輸の便利な所であり今後、県治の中心としてふさわしい岐阜町に県庁舎を新築して行政事務が行われる様になった。

各地から町人を呼び寄せて空穂屋町（ウツボヤ）材木町、鍛冶屋町、魚屋町、米屋町などが出来て商工業が一段と発展した。

町人の中には華美な生活を要求する者も現れて、因幡權現の門前に芝居小屋が造られたり矢島横町や上茶屋町には女郎屋が営業し始めた。

大宮町に酒蔵が出来たのも（金星酒店、小森酒店）この頃と思われる。

商売が繁盛すると商売の守護神や仏への信仰も深まり、農産物や養蚕の守護仏の美江寺観音を本巣郡から移したり、真言宗本願寺派別院が岐阜界隈きっての大きな構えで建立され、時の天皇や皇太子がお泊まりになった。大仏町の正法寺は岐阜のカゴ大仏として竹籠の上に経文を張り金箔を張った仏像で当時岐阜の紙問屋連の後援で建立された。当時の美濃紙のその実力の程がしのばれる。



松竹館と松竹座（道下淳氏蔵）

伊奈波神社（因幡社）は岐阜の総氏神として信仰され、丸山に鎮座して居られたが稻葉城を拡張した時井ノ口の谷（現在地）に移された。

明治7年10月皇大神宮分靈鎮守金刀比羅社や秋葉神社を合祀し皇祖天照大神を奉る神々の核たる神導中教院が山麓に建設された。

この様な信仰の地でもあった富茂登村（名裏町）は明治22年7月1日の市政施行により大宮町と改称された。爾来、今日まで百余年を経過し永い歴史を残して発展して来た町として高く評価されている。



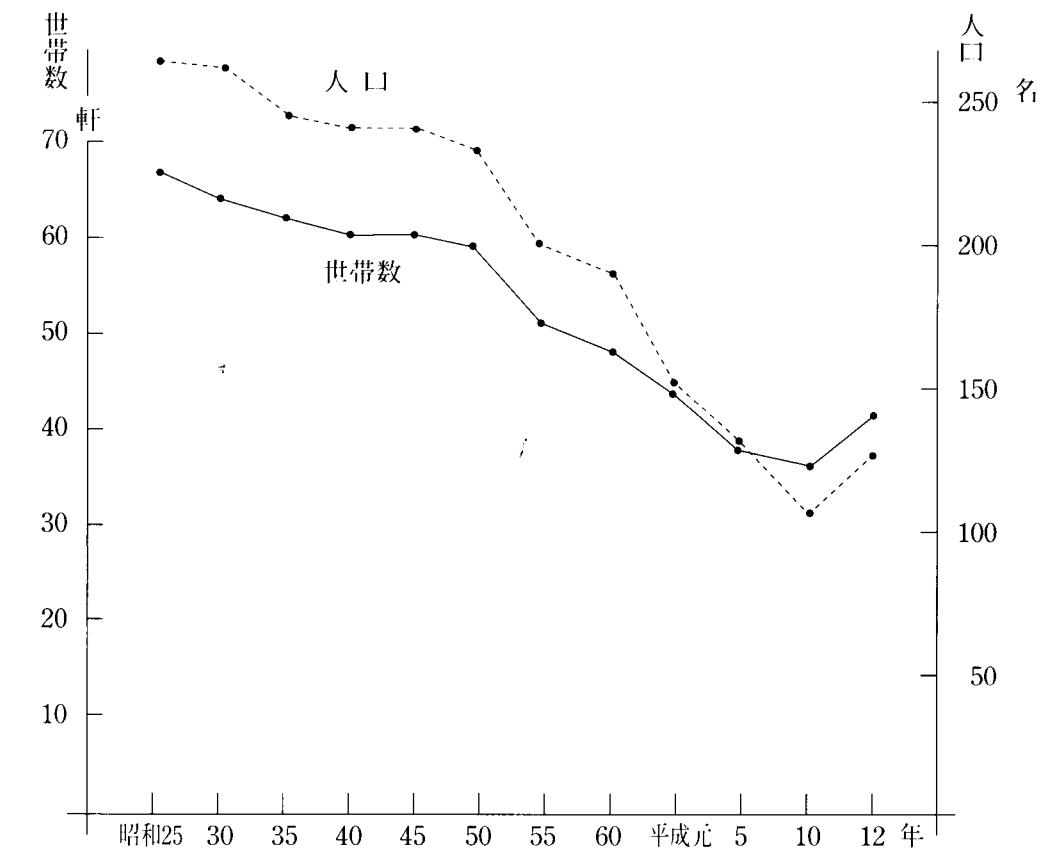
正法寺 大仏殿

2. 大宮町一丁目の移り変り

(1) 人口の推移

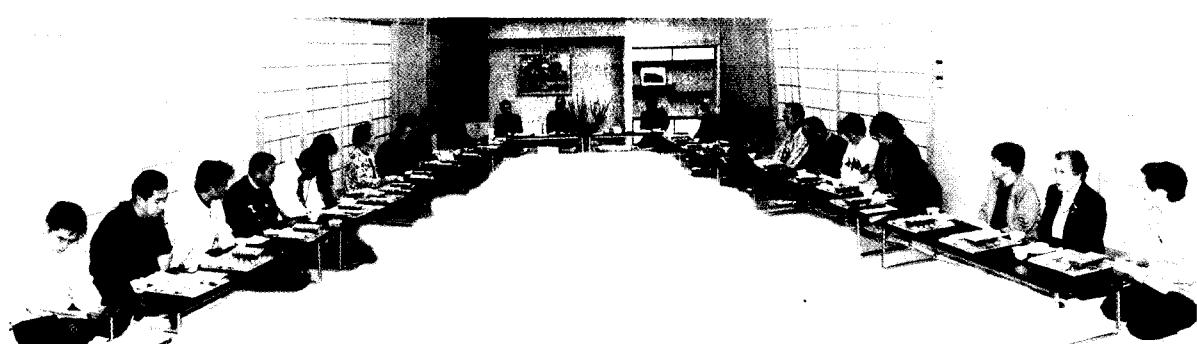
昭和23年以前の人口の推移は不明であるが、24年以降は下記の通りである

昭和24年頃	7班	67世帯	約265名
昭和30年頃	7班	65世帯	約260名
昭和35年頃	7班	62世帯	約245名
昭和40年頃	7班	61世帯	240名
昭和45年頃	7班	61世帯	240名
昭和50年頃	7班	59世帯	236名
昭和55年頃	7班	51世帯	200名
昭和60年頃	5班	48世帯	190名
平成元年頃	5班	44世帯	155名
平成5年頃	5班	38世帯	132名
平成10年頃	5班	37世帯	110名
平成12年頃	4班	43世帯	137名



(2) 歴代の町内会長

年代不明	(戦前～戦中)	建部 松三郎	町総代
〃	(戦中～戦後)	池戸 嘉一郎	〃
昭和24年度～昭和30年度		加野 重夫	広報会長
昭和31年度		石原 孫三	〃
昭和32年度～昭和33年度		石原 ナカ	〃
昭和34年度～昭和39年度		加野 重夫	〃
昭和40年度～昭和42年度		松田 専一	〃
昭和43年度～昭和45年度		近藤 源吉	〃
昭和46年度～昭和48年度		加野 重夫	〃
昭和49年度～昭和51年度		石原 燐	〃
昭和52年度～昭和54年度		加野 重夫	〃
昭和55年度～昭和57年度		酒井 博	〃
昭和58年度～昭和59年度		堀 達夫	〃
昭和60年度		杉本 金一	〃
昭和61年度～平成2年度		吉田 尚弘	自治会長（昭和62年以降）
平成3年度～平成4年度		河村 富夫	〃
平成5年度～平成6年度		堀 達夫	〃
平成7年度		大竹 弘道	〃
平成8年度～平成9年度		酒井 友宏	〃
平成10年度～平成12年度		堀 達夫	〃



自治会のみなさん（平成12年1月）

(3) 住んで居られた著名な方々

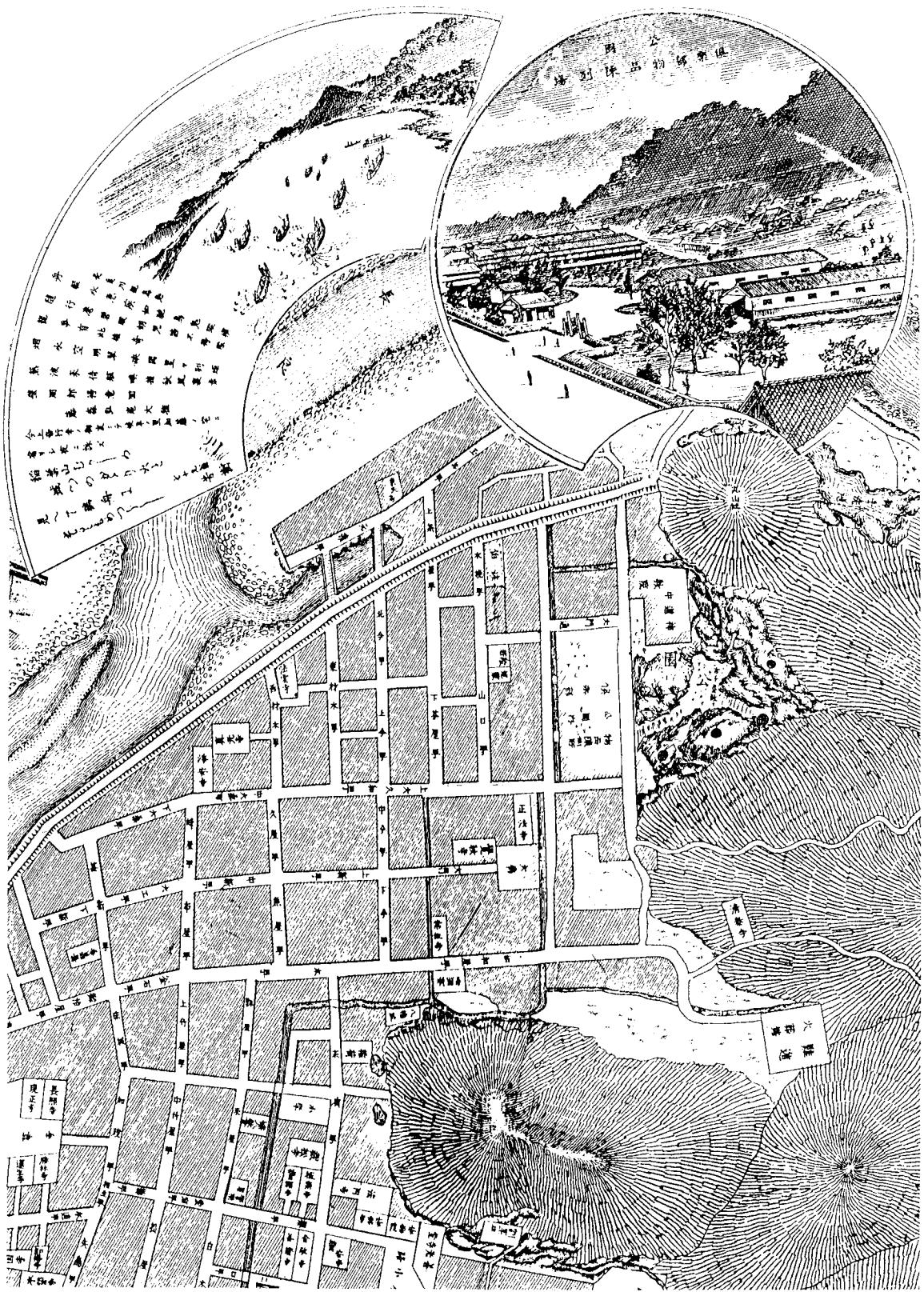
(順不同 敬称略)

鷹森 孝	歩兵第六十八連隊長 北支派遣軍第十二軍司令官 陸軍中将
鳥井 百三	軍医中将
建部松三郎	中教院神官 志那雄の嗣子
渡辺 敬礼	渡辺病院 院長
早川光次郎	岐阜市議会 議長
矢橋龍太郎	矢橋林業当主（赤坂 矢橋大理石系列）
後藤 芳弘	市立岐阜商業学校 校長（昭和10年4月～13年3月）
永野喜美代	川崎産業株式会社 社長
井戸 豊彦	元 日本赤十字岐阜病院 院長
杉山 弘和	元 岐阜大学医学部 付属病院 内科部長
平川 千里	元 岐阜大学医学部 付属病院 内科部長 教授
堀田房次郎	元 伊奈波神社 宮司
宇都宮 正	伊奈波神社 宮司
富田 幸治	元岐阜市立金華小学校 教頭 富田学園 校長
高森 正則	元岐阜商業学校 野球部 名捕手

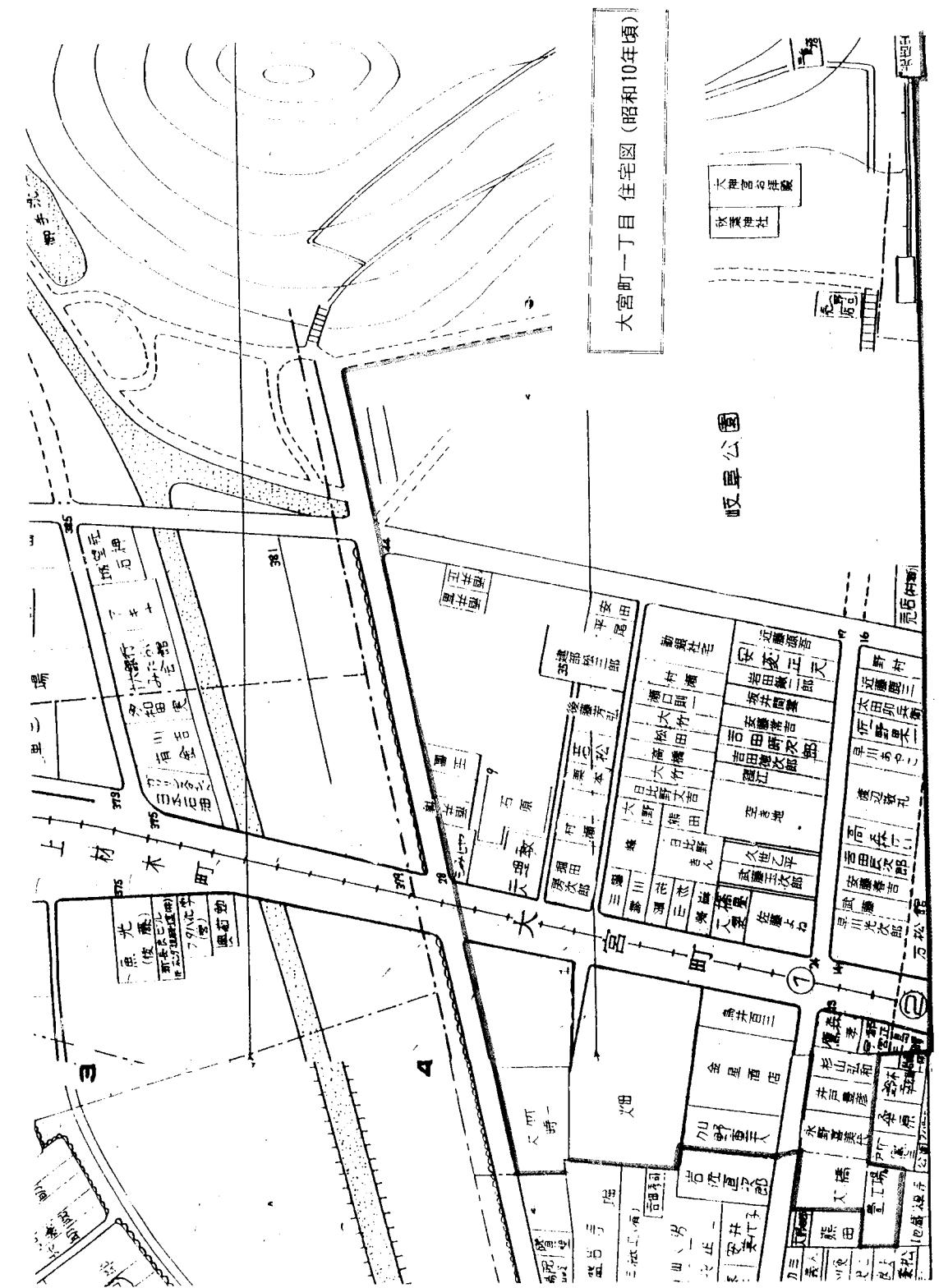
(甲子園球場にて試合中ボールが頭部に当たり負傷
現在ヘルメット着用を義務つけられた根源である)

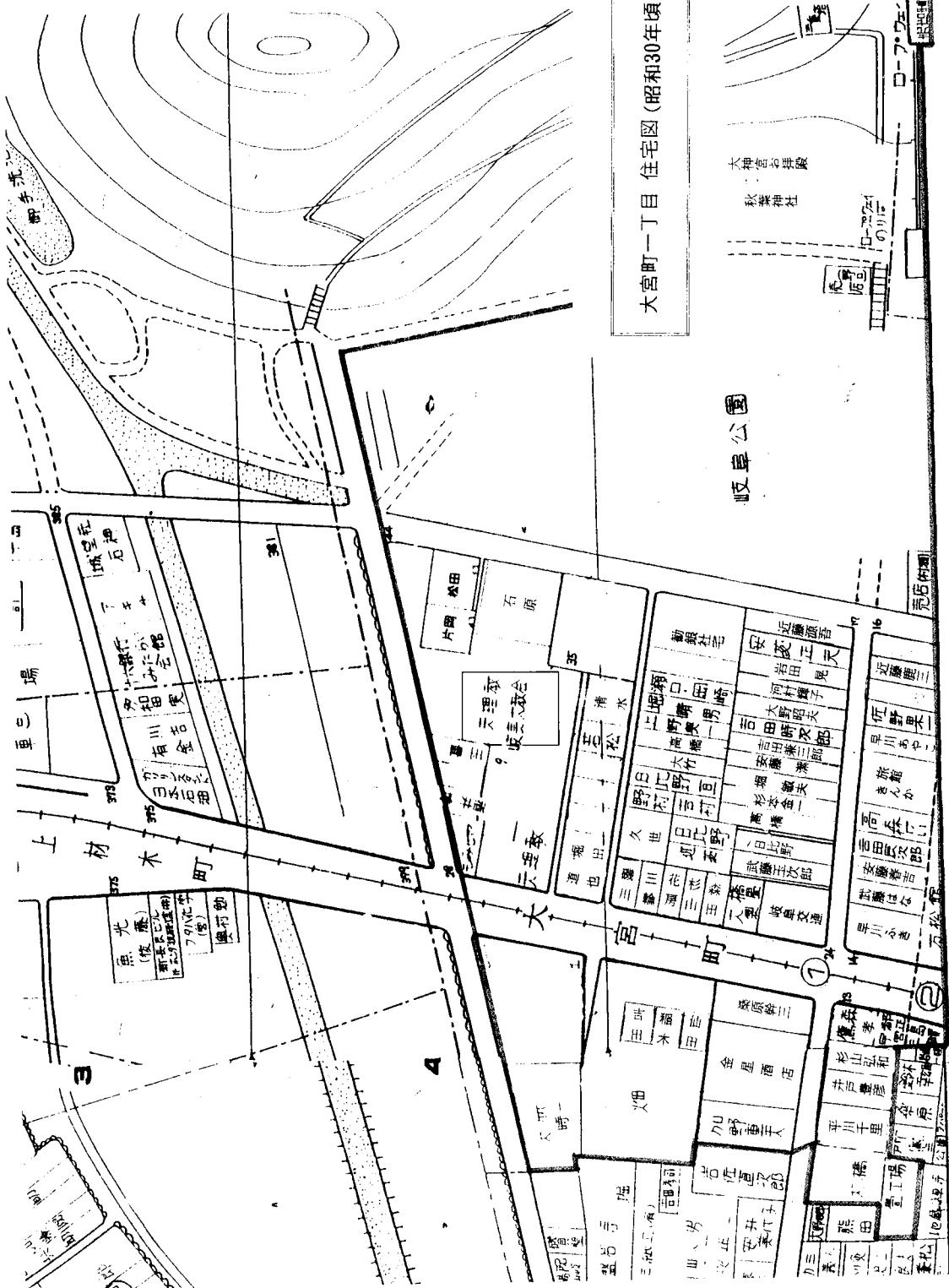
明治35年 七代目 桑原善吉氏が貸家を建てる（14番地 4軒 16番地 4軒）
明治36年 松井秀三氏が 貸家を建てる（17番地 6軒）
大正初期 七代目 桑原善吉氏が 貸家を建てる（12、13番地 6軒）
昭和初期 八代目¹ 桑原善吉氏が 貸家を建てる（19番地 6軒）
※ 詳細は伊勢湾台風により関係書類流失、汚損のため不明

(4) 住宅図の変遷

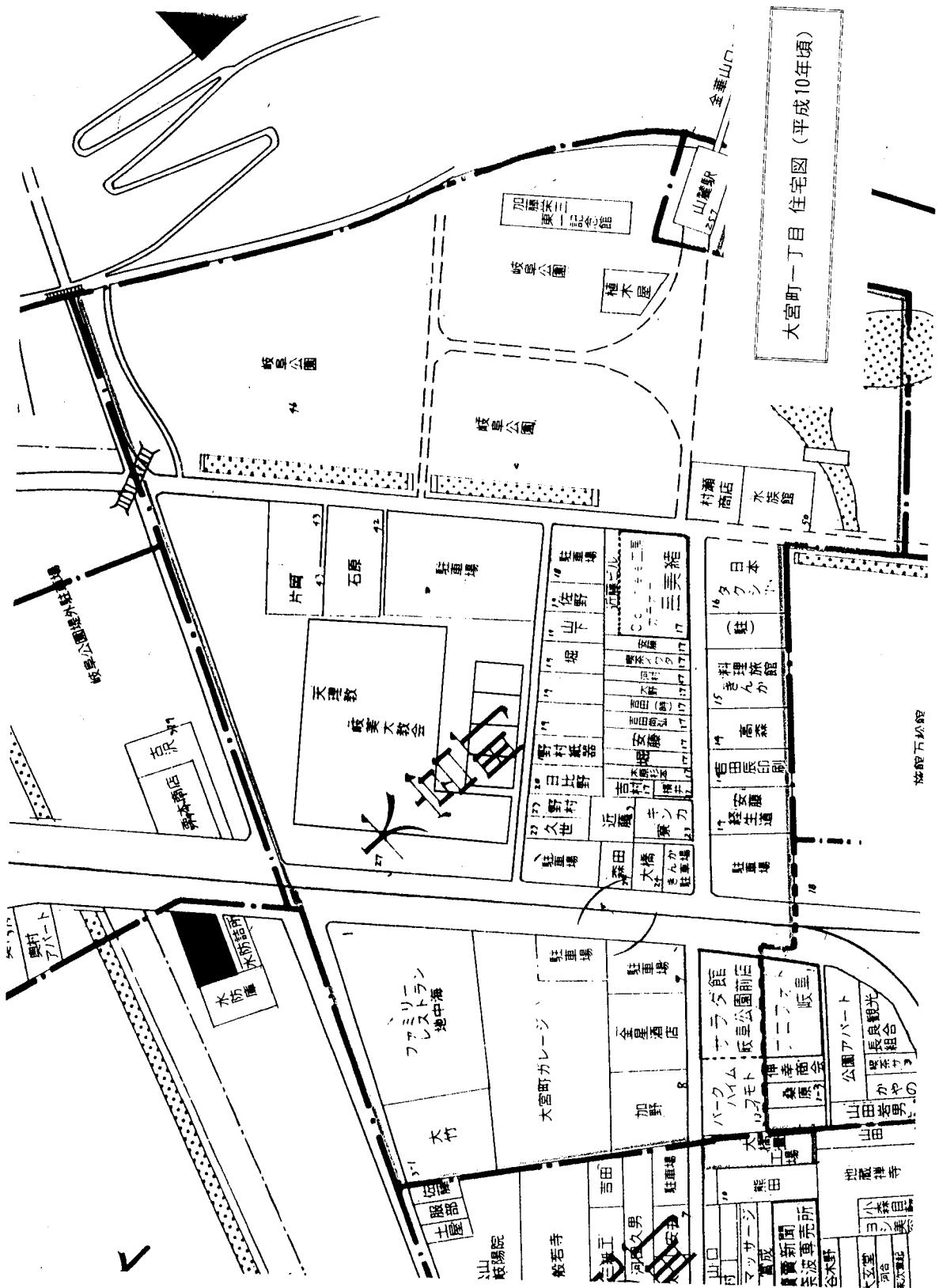


岐阜市史 史料近代1付録2（岐阜市歴史博物館蔵）





3. 大宮町一丁目の主な出来事



(1) 子供会の活動の状況

小学校児童が民本主義教育の一環として、各地域において実生活の中で各種活動の支援援助を行ない、児童の創造性を伸ばしていく教育運動の一つとして、中国との戦争に出征して行った兵士の無事帰還と勝利を祈願して集団参拝を行う日参団が各地域で出来た。これが現在の子供会の誕生と思われる。

当大宮町に於ても、昭和15年隣接の町内会に遅れる事なく結成され父兄の協力を得て、めざましい活躍をしていたが、太平洋戦争の終結と共に自然消滅してしまった。昭和28年終戦後の混乱も落ち着きを取り戻し、貧しいなかにも子供達に楽しみを与えようと町内の役員会で子供会の結成が提案され、町民全員の賛同により仲良し子供会が誕生した。天理教岐美大教会の拝殿を借りて結成祝賀会を盛大に行なった。

仲良し子供会 結成準備委員 近藤源吾 加野重夫 三島勘資 濱口則一
吉田兼三郎 大野末一
指導員 吉田尚弘 酒井富喜夫 大野昭夫

子供会の会合は、金星酒店の酒蔵を借りて運営、行事計画等を協議した。新年子供会、卒業入学を祝う会、等全員が集う時は天理教のお拝殿を借用して行なった。

春、秋の慰安会として年一回バス旅行を行なったが、物資不足の折柄、なし狩り、松茸狩り、宝探し等に人気があり、貸し切り大型バス2台をチャーターしても幼児はひざの上に乗せて行かなければならぬ程の盛況で、その日は町内が空になるくらいであった。

思い出せは 金華山トライフルエーハイキング
日野稻荷山松茸狩り
養老公園と南宮神社
小牧空港見学
山の上巣実園ナシ狩りと犬山遊園
知多の海潮干狩り
内海みかん狩り
谷汲さん参りとシイタケ狩り
その他

子供たちと楽しい一日を過ごしたのも昨日の事の様に思われる。

この様な行事の他に、子供達も町内清掃や公園内の清掃等奉仕活動を行なった。発足当時は子供の数も約60名余と多く行事の準備が大変であった。現在（平成11年）は10名を切る程に減少したため各地區別で行事が行なわれる状況である。



子供みこし（昭和21年4月）



早起きラジオ体操（大神宮様拝殿前 昭和28年頃）



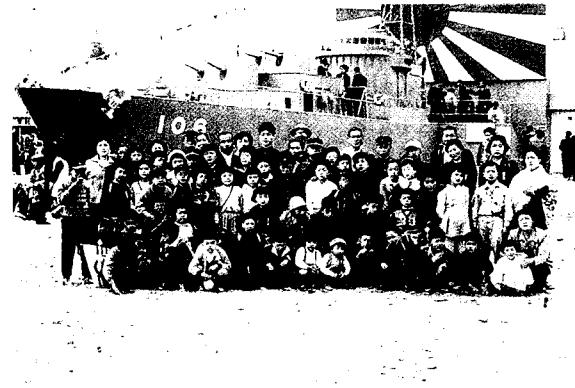
金華山ドライヴウェーハイキング（昭和29年頃）



子供会 町内清掃奉仕（昭和30年頃）



貸し切り電車で慰安会（昭和31年頃）



犬山防衛博にて（昭和32年頃）

(2) 少年野球の始まり

大正の終りから昭和の始めにかけては金華小学校の野球部が全国的にその名を轟かせた時代であった。

大正10年頃当時、岐阜公園グランド（元岐阜県立図書館、動物園、板垣退助銅像等のあった付近）は約200メートルのトラックが楽にとれる程の広場で地元の大宮町を始め木挽町、今町、上茶屋町の子供たちがテニスボールを竹の棒ぎれで打って必死にボールを追う子供だけの楽しい世界であった。

金華小学校に赴任された林貫次郎先生のお骨折りにより野球部が創設され指導を受けた様になった。

ボールの受け方、打ち方を始め野球のルール等次第に身につけて行き、今まで素手でやっていたのでグローブやミットを着けると勝手が違ったが、子供達の熱意と林先生の厳しい指導の結果、他校との試合や公式戦への参加も出来る様に立派に成長した。

野球部が出来て2年目、岐阜地区野球大会に優勝し、さらに3年目には明治神宮球場、4年目には藤井寺、5年目に京都岡崎球場と全国大会に駒を進め金華小野球部の名を天下に広めて行った。

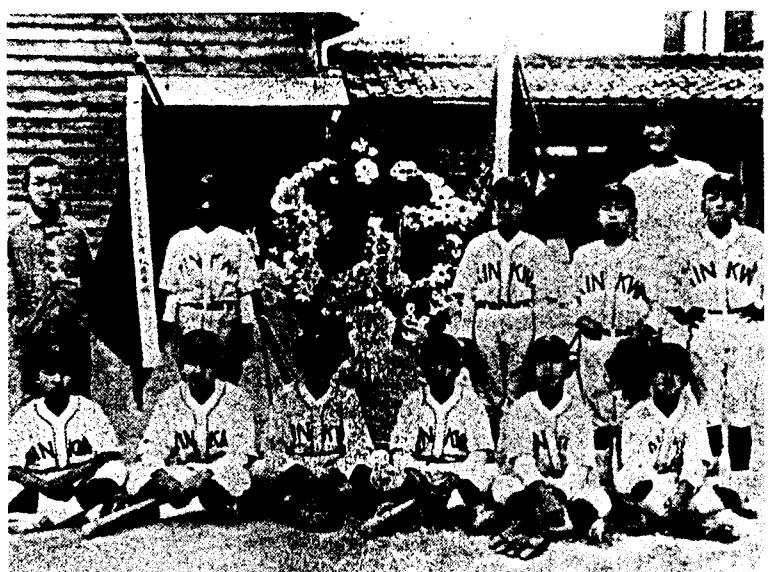
当大宮町一丁目では酒井武男捕手（酒井富喜夫氏の伯父）稲葉信一二塁手等名選手が活躍して、後の野球の名門岐阜商業の選手として野球王国岐阜の名を築く一員として活躍された。



大日本少年野球協会岐阜大会 優勝の金華小学校野球部（大正13年）



第9回全国学童野球大会で堂々入場する金華小学校チーム（昭和3年8月藤井寺球場にて）



目ざましい活躍をした尋常科野球部の姿（金華小学校提供）

(3) 伊勢湾台風

昭和34年9月26日、前日以来降り続く雨も一向に止む気配もなく、重くたれ下がった空からの雨あしも今まで以上に強く感じられた。

乾かぬ乳児のおしめが部屋一ぱいに干され、湿度をなお上昇させ、ラジオで最大級の台風の接近を報じ注意を促している。長良川の水量は今のところ心配は無用。近所では台風対策が始まりガラス窓の破損防止に板の打ち付けや雨戸の括り付け作業が氣ぜわしく行われ台風に備えていた。

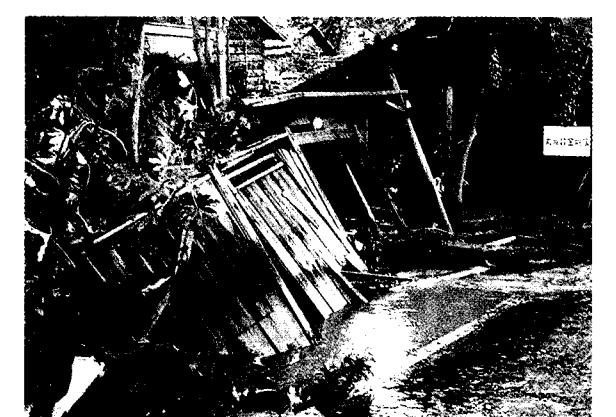
夜中になり風が強く二階の窓が危険状態となって来たため、畳を捲って窓に当て押さえる事となった。時々吹き付ける風で窓は弓状になり今にも外れそうになる雨戸を必死に押さえ付け風との力比べが夜明けまで続き、風が治った頃には家族全員へとへとに疲れ、ついうとうとし始めた時「水が出た、水が出た。」と叫ぶ声に目を覚まし板の透き間から外を見ると西側から浸水して来ている。

どうして良いやら途方にくれている間にも水かさは増して長靴も用を達せず歩行を困難にしている。北側からの浸水で出入り口の戸が開かないで無理に開けようとしたら家の中の浮遊物が流れ出て来たので、いそいで閉めようとしても水圧でなかなか思うように動かない。浮遊物流出を防止するのに苦労した。

派出所前で土嚢積みが始まった。各戸より一名以上出動と広報会長から伝達があり、急いで現場に着くと堤防内部の住民から苦情が出て混乱が始まり、棒ぎれ等での争いで発生して危険状態となっていた。また老人、女、子供はロープウェー駅前に一時避難させ安全を確保した後水防現場へ急いだ処、災害救助隊のダンプカーが土嚢用の土の運搬のため応援者の同乗を求めていたので、それに乗り込んだが道路交通の混乱で身動きできず、引き返し堤防からの浸水の防止のため板材を組んで土嚢で止める作業を必死に頑張った。

芥見、日野、雄総等で堤防が決壊したため、増水は一旦治まったが畠一杯まで浸水した後始末が疲れた体に尚一層厳しく感じられた。何回も繰り返し洗浄しても土は落ちず白く浮き出る汚れに悩ませられる毎日であった。

数ヶ月経過後、応急補修された家の透き間風が気になり調べて見ると浸水時洗われた壁が落ち、壁下地の竹が現れていた。



伊勢湾台風災害被災状況（昭和34年）

(4) 自営水防団（町内を護る会）の編成

今回の水難による苦しい体験を元に、今後の対応策として大宮町一丁目水防団（町内を護る会）を結成した。会長には近藤源吾氏、副会長（水防倉庫管理責任者）松田行夫氏、副会長（半鐘櫓責任者）吉田尚弘氏を選出、班長は広報会班長が兼任する、会員は各戸で一名以上参加するよう決めた。

金華水防団に協力して活動することとし、金華水防団の水防用具倉庫の管理担当等も決め、早速、帽子、地下足袋を支給、半鐘を設置してスタートした。

昭和35年には台風11号、12号と連続の豪雨に神経を尖らせたが、幸い長良川警戒水位となると、水防団詰所に警備し、早めの対策が功を奏して町内への浸水は防止する事が出来た。尚、堤内居住者の理解により大宮陸閘の組み立てがスムーズに行われた。

昭和37年3月、建設省によって待望の大宮陸閘が完成、堤外への浸水は皆無となったが堤内居住者は洪水の都度被害を被ることとなる。

平成11年の大洪水は伊勢湾台風以上の増水となり一部避難命令が出されたが被害を最小限に止める事が出来た。



大宮町付近の浸水状況（道下淳氏蔵）



長良橋南岸付近の状況（道下淳氏蔵）

(5) 集中豪雨による浸水記録

1. 昭和34年伊勢湾台風

台風通過後、翌早朝、長良川が氾濫し、本通りより浸水（畠みスレスレ）老人子供はロープウェー前広場に避難、一般町民は水防堤上裏積みに協力した。

昭和36年室戸台風

前回の伊勢湾台風の体験を生かし早めに水防堤を積んだため前回の様な被害は避けられた。

2. 平成5年8月15日

集中豪雨により金華山からの雨水が浸水、落ち葉、枝切れ等が大量に町内へ流入した。

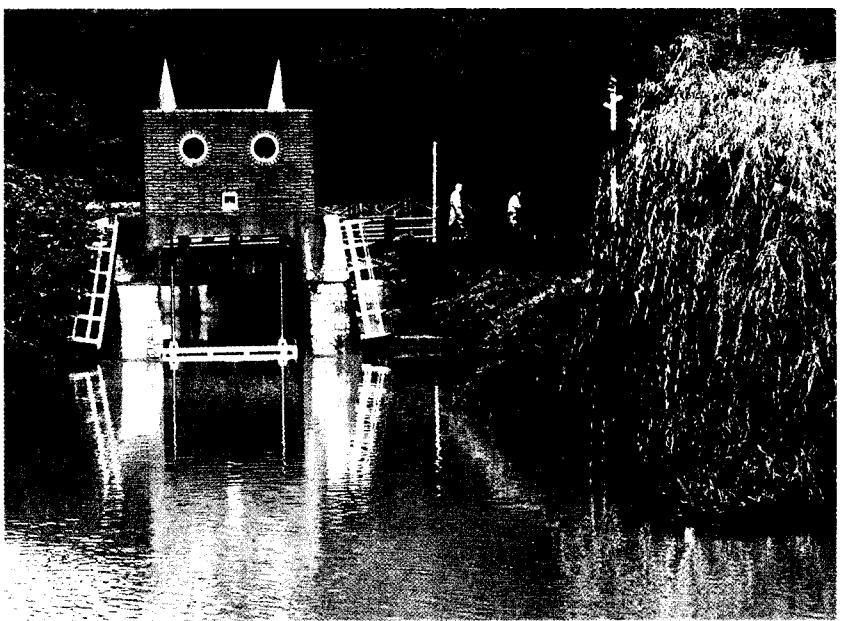
3. 平成11年8月13日

時間雨量54ミリの集中豪雨により金華山、岐阜公園からの雨水が町内へ浸水、岐阜公園再整備中の為排水不十分、せせらぎの新設による排水機能不良、落ち葉、枯れ枝等が町内一円に流入した。

市役所に早期に再発防止対策を実施するよう要望した。

4. 平成11年9月15日

台風16号が岐阜市北部を通過したため14日から15日にかけて県内は豪雨となり、長良川の水位も上昇し警戒水位をはるかに上回り各地に大きな被害をもたらした。再整備中の岐阜公園は臨時の排水溝等の対策を実施したため8月13日の様な事故は免れた。



平成11年8月 集中豪雨及び同9月 16号台風時の災害被災状況

4. 大宮町一丁目内外の主要施設

(1) 金華山 岐阜城

金華山（標高338メートル）山頂の岐阜城は鵜飼と共に観光岐阜のシンボルである。斎藤道三や織田信長の居城として知られている。関ヶ原の合戦のとき城主織田秀信が西軍に味方して敗れ慶長六年（1601年）廃城となった。

明治43年1月岐阜市保勝会（現在の観光協会）の骨折りにより長良橋の廃材を利用して天守閣の再建と城趾記念碑の建設が始まった。

先ず建設委員の実地踏査班が大手筋の七曲口を登った。岩戸への分岐点から山頂まで幅3.6メートル前後の道が続いているが枝が伸びたり岩がゴロゴロして歩きにくかった。百曲口との合流点（現在のロープウェー山頂駅）のすぐ先の平坦地は七間櫓のあった場所（現在の展望レストラン）。此の当たりには残塁が見られ焼けた瓦が土中に埋まっていた。七間櫓から上格子門に出るとその先には馬場だった平坦地があり二の丸門へと道は続く。天守格の西側には石垣を積んだ跡があり左側に三個右側に一個の井戸があった。天主台は120メートルほどの平地になっていて石段が壊れたと見られる跡があった。実地踏査が行われたのは明治43年1月で、2月20日から作業道路に使用される七曲口の改修に取り掛かり、作業では大工組合が全面協力、人海戦術で資材を運び上げ、同年2月末より建設に着手した。請負金額は道路の改修が100円、城跡石垣修繕が150円、天守格が1,200円、城跡記念碑が780円であった。

落成式は城跡記念碑の除幕式も兼ねて明治43年5月15日に行われた。

昭和18年2月17日浮浪者の火の不始末により全焼した。また城跡記念碑も軍事供出のため山を下りた。

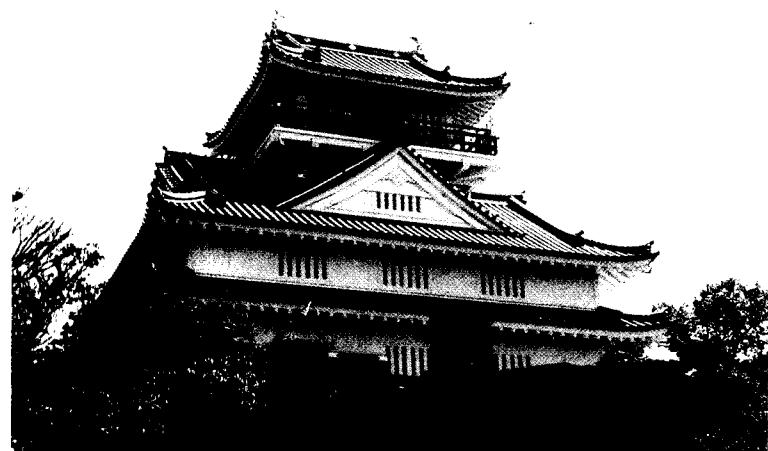
尚、岐阜城の消失は米軍の岐阜空襲のための目標になり不都合であると軍の命令により焼かれたと言う説も流れたが正否は不明である。

昭和30年市民の強い要望により再建準備会が発足、6月には岐阜城再建期成同盟会の募金活動が始まり約2千万円の寄贈を基に同年10月着工、鉄筋コンクリート造りの3層4階建て460.98平方メートルの雄姿が復活し、昭和31年7月25日には落成式が盛大に挙行された。岐阜城の再建が起爆剤となり全国各地で城の再建ブームが起こりお城めぐりの観光バスが賑わいを見せた。

完成以来40年間強い風雨に曝されて、特に屋根の損傷が激しく平成9年大改修工事が行なわれた。今回も瓦運び等市民の協力により工事も順調に進行して5月には新緑に映える金華山に金の鯱鉾が一段と輝き近郊からも、その雄姿が見られるようになった。



完成時の模擬城（明治43年）



大改修後の勇姿（平成9年）



瓦運び隊で賑わう登山道（平成9年）

(2) 岐阜公園

イ. 岐阜公園の誕生

明治6年1月太政官布達16号の発布を機に小川汲三郎、近藤伊三郎氏等（岐阜の三紳士）が地域の公園化構想を計画した。

明治7年10月皇大神宮分靈鎮守と金刀比羅社や秋葉神社を合祀し皇祖天照大神を奉たる神々の核たる神導中教院等を山麓に建設した。

明治15年頃になると山岳信仰の由緒ある地となり、人の往来も活発で景観にも勝れており公園の指定条件を満たしている事から公園化の好機到来として工事に着手した。

明治21年11月に丸山公園として開園し明治26年8月岐阜市に移管し岐阜公園と改称された。

その後管理が放置されて狐狸の巣となる時期もあったが、大正期に入って本格的再整備が行われ、今や岐阜公園は年間300万人の人出で賑わっている。

ちなみに太政官布告による主な公園には偕楽園（茨城、水戸）後楽園（岡山）兼六園（金沢）上野公園（東京）等がある。

ロ. 岐阜公園の主な施設

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. 小動物園 | 平成9年岐阜公園再整備計画により全面撤去 |
| 2. 万松館 | 明治22年完成 |
| 3. 名和昆虫博物館 | 明治29年設立明治37年現在地へ移転 |
| 4. 武徳殿（大日本武徳の会） | 明治41年11月落成昭和29年浮浪者の失火で消失 |
| 5. 女神の噴水 | 昭和24年7月竣工躍進博覧会に平和を記念して建立 |
| 6. 淡水魚水族館 | 昭和25年9月オープン平成11年6月廃館 |
| 7. 児童科学館 | 昭和30年武徳殿跡地に建設昭和62年岐阜市本荘へ移転 |
| 8. 金華山ロープウェー | 昭和30年開通 |
| 9. 県立図書館 | 昭和31年～平成7年7月7日岐阜市宇佐へ移転 |
| 10. 岐阜市歴史博物館 | 昭和60年11月1日オープン |
| 11. 岐阜公園来園者休憩所 | 昭和63年6月12日完成 |
| 12. 織田信長居館跡 | 昭和63年6月12日完成 |
| 13. 加藤栄三東一記念館 | 平成3年5月11日オープン |
| 14. 岐阜公園信長樂市 | 平成12年4月8日オープン |

ハ. 岐阜公園の小動物園

昭和25年オープン当時は淡水魚水族館を始め月の輪熊、オシドリ、タヌキ、羊と四種類程度だったが故松尾吾策市長が積極的に動物園化を推進し、昭和33年には名古屋東山動物園からライオン雄雌1組やペンギン4頭を譲り受け岐阜公園動物園のシンボルとして人気を博した。その他各地の動物園と交流を図り、ワニ、かんむり鶴、白鳥、海亀等も飼育、動物園は入場無料と言うこともあり週末祝日には家族連れでにぎわった。

昭和52年、岐阜公園動物園のシンボルとして一番人気のライオンが老衰のため死んでから、動物の飼育が畜産センターに移動し、鳥類のみとなつたが、やがてこれら鳥類も姿を消した。平成11年6月16日最後のペンギンも川辺町の黒谷自然公園へ引き取られ、人気を博した岐阜公園動物園も懐かしい思いでを残して幕となった。



岐阜公園の鳥舎



岐阜公園の遊具

(3) 名和昆虫博物館

名和昆虫研究所は昆虫翁と呼ばれた名和靖氏が明治29年岐阜市京町に開設された害虫駆除、益虫保護を目的とした研究所で、明治37年に岐阜公園に移転、同40年には陳列館（現在の記念昆虫館）大正8年には博物館を開き農業や昆虫学の研究、教育に大きな役割を果たしてきた。

記念昆虫館は当時高名な建築家で名古屋高等工業学校（現名工大）の校長であった武田五一氏の設計である。桁行14.54メートル梁間7.30メートルの二階建て鉄板葺き切妻形式である。一階壁はレンガ組みでこの上の屋根を支える三角形の木造トラス組みを設けて二階としている。急勾配の屋根には一階窓に対応して四ヶ所ずつ採光出窓を設けて変化をつけている。

この建築はオーストリアに興ったセセッションと呼ばれる建築様式の流れを汲むもので実用性や理論的な建築構造を重んじた新しい考え方であった。記念昆虫館はセセッションの日本における代表例の一つで明治末から大正にかけて日本の新しい建築文化への出発点にあるものと考えられる。

尚、此の建物には約一万種類、二十万匹の昆虫標本が保管されており、その一端が陳列され常時縦覧出来る。



明治40年頃の名和昆虫研究所
(道下淳氏蔵)



現在の名和昆虫研究所資料館

(4) 萬松館

岐阜公園は織田信長縁りの金華山の麓に明治20年頃からぎふの三紳士と言われた人達が中心になり一般町民、消防組、の全面的な協力によって明治22年に完成した。その時、園内に迎賓館、俱楽部、物産陳列所が建てられ、迎賓館は萬松館と称して官民の会合や内外の貴賓を迎える場として用いられた。

金華山の移り変わりを四季の借景として、三千坪の庭に囲まれた建物は伝統に生きる日本建築の粹を擬して、優美な外観雅と寂びが漂う内部のたたずまいは、そのまま名工の技の世界に誘い込まれる感がする。

園内に造られた庭園は日本の名園五十の一つに数えられた。

その後岐阜町（岐阜市）に寄贈されたがその運営は民間に委託され、杉山半次郎氏、五百木一雄氏等に引き継がれ明治、大正、昭和、平成とその星を重ねて来た。今は使われていないが長く岐阜の茶人に愛されてきた茶室がある裏の小庭に面した此の部屋は、萬松館の日本美をそのまま凝集した様な幽玄な気品を漂わせて、茶人たちが四季の宵、夜咄の席に時を忘れたと伝えられる。

明治、大正、昭和にわたって昭和天皇行幸のおりには、度々お泊まりになったのをはじめ数多くの有士、名士が来館された。

信長居館跡、日本三大仏の一つ笠大仏が金華山と共にこの建物を囲み美しい山麓の風情を創っている。

建築後間もなく濃尾大地震によって大きな被害をうけたが、民間の手によって修復され、今次大戦の岐阜空襲においても此の辺り一帯は戦火は免れる事が出来た。建物の南に建つ岐阜市歴史博物館は建築当時の物産陳列所の跡地と伝えられる。



萬松館 正面玄関



萬松館 中庭

(5) 武徳殿

明治41年11月3日大日本武徳の会岐阜支部武道場が飯沼氏等の骨折りにより落成した。

現在の岐阜公園管理事務所来園者休憩所付近に、また道路を隔てて西側に弓道場があり、警察官や武道愛好家の練習場として厳しい練習が行われていた。

小高い石垣を登り、道場の格子戸に顔を寄せて練習の様子を見るのも近所の子供たちの楽しみの一つであった。剣道柔道は東側の道場で行われ、竹刀で打たれ必死で打ち返す熱のこもった練習風景や、背負い投げをくい見ている子供達の目の前まで飛んでくる様子に胸を彈ませ乍ら宿題も忘れて見ていたのが昨日の事の様に思い出される。

昭和29年夏の夜、外の騒ぎに出て見ると武徳殿から凄い火の手が上がっており、町民は急いで身支度を整えて現場へ走り消火活動に加わったが、火の勢いに武徳殿には手が出せず隣接の料亭友平の茅葺き屋根への類焼防止のため、火の粉を被りながら必死にバケツリレーに努めた。

幸い料亭への類焼だけはくい止めたが、武徳殿は哀れにも焼け落ちて惨めな姿を曝していた。原因は浮浪者の失火であった。



武徳殿 岐阜市歴史博物館所蔵（高富町 林隆氏撮影）

(6) 三重の塔

岐阜市が大正4年頃、公園の整備と大正天皇即位の記念として旧長良橋の廃材を利用した三重の塔の建立と板垣退助の銅像の建設を計画し、川合玉堂画伯に相談していた。画伯は大正6年1月建立の位置設定のため大雪のなかを探して歩き、桑原邸の離れの窓際にて休憩中金華山を眺めて塔が山によく合う場所として現在地に決められた。

当時、一流の建築家東京帝国大学伊東忠太教授の設計と技術の粹を集めて大正6年2月15日起工、総工費5,500円で同年11月に完成、11月20日には高野山恵光院からご本尊の弘法大師像が贈られ服部市長以下3,600名が出迎えた。11月21日から3日間落慶法要と七百余名の稚児行列を始め、もち投げ、芝居、相撲大会、芸者の手踊り、丸山では花火の打ち上げ、町内では花神輿等で連日賑わった。

尚、岐阜市本町出身の彫刻家加納鉄哉作の観音像も塔内に納められたが、戦後観音像は行方不明である。

その後台風や地震にも耐え、その都度一部の小修理は行われて、木立の間から端正な姿を見せ観光客を楽しませていた。約85年を経過して老朽化も激しく、庇や屋根が危険な状態になり、平成11年10月から12年3月まで5ヶ月掛けて大改修が行われ、今では飾り金具が夕陽に映えてまぶしく輝き新緑の中に朱塗りの美しい姿を蘇えらせている。



岐阜公園 三重の塔（大正6年建立）

(7) 水族館

終戦後5年を経過した昭和25年9月1日岐阜公園内に淡水魚水族館が開館した。これは木造平屋建て158.4平方メートルあり当時としては我が国最初の淡水魚だけの水族館として名声を博した。

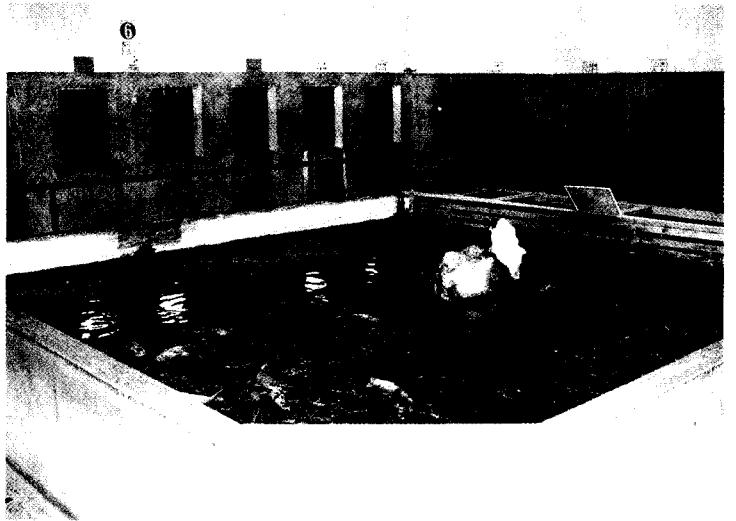
館内には24の水槽と大プールがあり、鶴飼いにつきもののアユをはじめ大サンショウウオ、ニジマス、ウゲイ、カワムツなど淡水魚の代表的なもの18種類が飼育され、なかでも大サンショウウオは圧巻であり見物客の目を引いていた。

やがて30余年を経て老朽化も激しく人気も減少し廃館の意見も出始め、平成11年の公園再整備計画により解体が決定し、永年親しまれて来た大サンショウウオを始めペンギン、淡水魚類約70余匹は東京上野動物園等各地に譲渡され、平成11年6月16日地元の人々に別れを惜しまれながら移送されていった。

これで岐阜公園から動物類は完全に姿を消した。



水族館の全景



水族館の内部

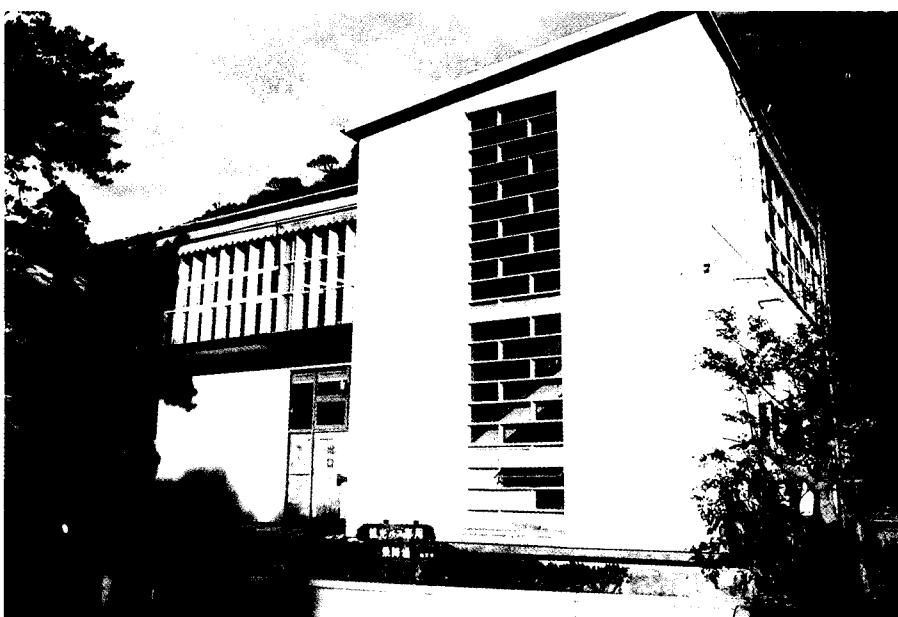
(8) 児童科学館

昭和29年消失した武徳殿跡地に、昭和30年7月児童科学館が完成した。

建物は鉄骨木造二階建て延べ450平方メートルで、発電の様子や交通車輌の模型を始め各種科学的展示機能が、スイッチ操作で自由に実験する事が出来た。同館は科学時代にふさわしい博物館施設で、この施設をモデルケースとして各地に児童科学館が建設された。

特に印象に残っているものは、玄関を入ると、ロボットが出迎えてくれて対話が出来た。毎日、ロボットに会いに行くのが楽しみで勉強や宿題も忘れて閉館時間まで楽しんでいた。

開館当初の昭和31年には、わずか3万人の利用者に過ぎなかったが、その後順調な伸びをみて、昭和39年度には6万人を越えて開館当時の2倍に達し、昭和50年度は3倍以上の10万人に達する盛況振りであった。しかし、科学の進歩は素晴らしく、この設備では対応が困難となり、昭和55年5月岐阜市本荘に岐阜市少年科学センターが完成したため閉館され、昭和62年5月老朽化のため解体されて、昭和63年岐阜公園管理事務所及び来園者休憩所として生まれ変わった。



在りし日の児童科学館

(9) 天理教岐美大教会

明るく陽気に暮らせる世の中を築くため常に奉仕の気持ちを持って社会に尽くす事をモットーに、教祖の教えを守って何事にも感謝の気持ちを忘れない天理教岐美大教会とのふれあいは、地元住民にとって大変貴重な存在であり、かつ日常の生活の中に深く溶け込んだ必要不可欠なものとなっている。

設立されて百余年、例えば朝は太鼓の響きで一日の生活が始まり、夕べにはおつとめの笛の音とともに灯が落ちて一日の終りが生活のリズムとなっている。町民が集う場所として借用したり、種々のもてなしを得たり、互助協力の精神こそ町民と教会との親交を厚くしている。

近い将来教会が移転すれば自治会活動は大きく転換しなければならない事は必然である。

天理教岐美大教会の変遷

- 明治27年11月27日 岐阜県厚見郡岐阜市中今町17番地に岐美支教会を設置初代会長石原政氏
- 明治29年3月18日 岐阜市富茂登堤下290番地（現大宮町1丁目39番地）に神殿を移転建築
- 明治42年2月23日 岐美分教会に改称
- 大正13年7月24日 石原孫三氏二代会長に就任
- 昭和15年6月15日 岐美大教会に昇格改称
- 昭和31年9月27日 石原つるえ氏三代会長に就任
- 昭和39年12月2日 創立七十周年記念祭
- 昭和46年12月2日 神殿落成報告祭
- 昭和47年12月26日 石原漣氏四代会長に就任
- 昭和48年3月2日 創立八十周年記念祭会長就任報告祭
- 昭和59年12月1日 創立九十周年記念祭
- 平成5年3月28日 創立百周年記念祭
- 平成9年6月 岐阜公園再整備計画により市より移転の要請を受ける



天理教岐美教会 創立百周年記念祭



神殿移築（昭和29年）



天理教大祭風景



創立100周年記念式典（平成5年3月）

(10) 金華山ロープウエー

昭和30年4月岐阜の歴史と観光のシンボル金華山にロープウエーが全国に先駆けて華々しくオープンした。

地元の若い衆が馬の背コースを一気に駆け上がっても約25分を要し家族連れて七曲がありコースを登れば約45分から1時間は充分掛かったがこのロープウエーを利用すれば僅か3分足らずで頂上へつく。

そのうえゴンドラからの展望は一段と素晴らしい休日には長蛇の列が出来、整理に一苦労する程であった。

地元の者は遠方から来て下さった人々に先に乗って貰おうと気を使っているうちに5～6年が過ぎてしまいロープウエーに乗ったことが無い人が多かった。

初代のゴンドラは21人乗りでフル運転でも1日延べ5千人の輸送能力で、諦めて帰る人も多い程の盛況ぶりを示した。

昭和36年7月岐阜城が落成し、尚一層利用者も増加の一途をたどり、昭和37年6月27人乗りに更新して輸送力をアップして待ち時間の短縮を図った。

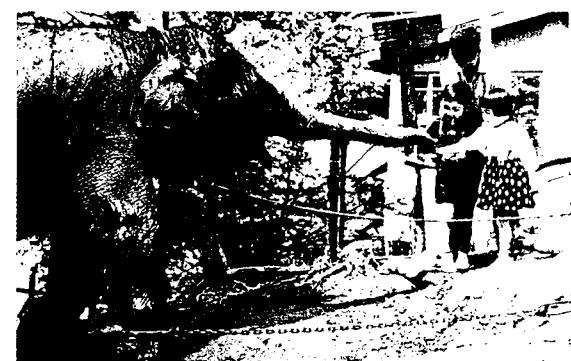
昭和43年6月さらに輸送力アップのため32人乗りに更新すると共にスピードアップのため施設の大改修を行い毎秒3メートルから3.6メートルへのスピードアップに成功した。

昭和48年NHK大河ドラマ国盗り物語りの放映により利用者は倍増し、嬉しい悲鳴となつたが従業員一同一致協力してフル運転に努力して大過無く業務の遂行が出来た。

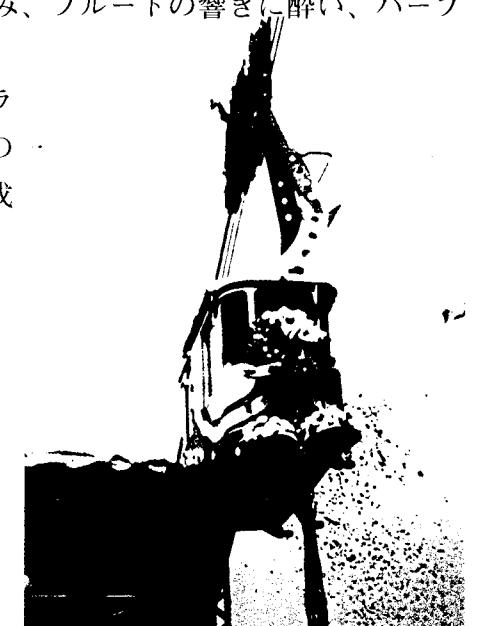
その他、年中行事として毎年12月上旬には施設の子供達を招いて金華山頂上餅搗き大会を開催、回を重ねる事19回となった。

東洋一を自負する百万ドルの夜景輝く岐阜を是非皆様にと6月から10月まで毎週土曜日には営業時間を夜9時まで延長し金華山頂上から夜景の鑑賞と、有名音楽家を招いて星と名月をバックに秋の一時をトランペットで楽しみ、フルートの響きに酔い、ハープの演奏に魅了させられる様な催しも行われていた。

昭和61年2月デザインも一新された最新型ゴンドラに更新してイメージアップを図ったが、岐阜の観光の翼を担うに相応する施設として生まれ変わるために平成3年11月より110日間の運休に入った。



開通5周年記念行事として象が山を登る（昭和35年）



金華山ロープウエー開通（昭和30年）

中間の鉄塔もロープウェーのシンボルとして夕陽に映えてロープとともに銀色に輝く風景は何とも言えない風情があり素晴らしい金華山の一景であったが、いつの間にか山の緑と同色に塗り替えられた。山の中腹にデンと構えて風にも負けず雨にも負けず力強くロープを支える雄大な姿は金華山ロープウェーを象徴する如く立派なものであったが平成3年11月の大改修により、その姿が消え誠に寂しい思いがした。

平成4年3月14日全面大改修が完了し、装いも新たにリニューアルオープンセレモニーが盛大に行われた。

1. ワイヤーロープの張り替え
2. 近代的な駅舎への変身
3. ゴンドラは32人乗りから46人乗りへと大型化し輸送力のアップ
4. 中間鉄塔の撤去によるスピードの一定化で快適な乗り心地の確保

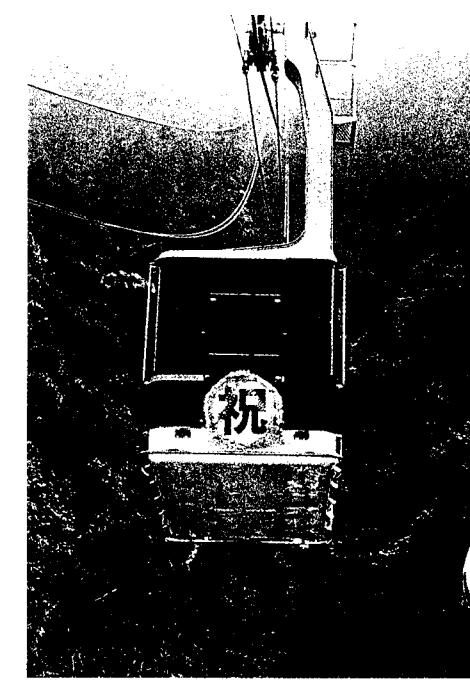
等観光岐阜のシンボルとして相応しい姿になり、その後の信長ブームに便乗り利用者数も順調な伸びを見せていている。

小学校の社会科の時間に『金華山や岐阜公園にどんな動物がいるでしょうか』と先生の問いかけに対し小さな、かわいい手が一斉に上がり『ライオン、ワニ、ペンギン、ポニー、サル…』元気な答えが帰って来るなかで『象』と答えた少女がいた。先生は『エー象なんていただかな、皆さん知ってる』と否定的な様子に生徒たちも『そんなものいない、いない。まりちゃん夢であったのでしょうか』と否定する中で、少女は自信をもって『いた、絶対いた』と頑張ったが、ついに認められず、悔し涙を拭いつつ家に帰り、その旨を家族に伝えたところ、幸い父に写して貰った写真があり、先生や生徒に認めさせたエピソードがある。この話は昭和35年に金華山ロープウェーが開通5周年記念行事の一環として、象は金華山頂上まで登るため何時間かかるでしょうか、というクイズが出された。所要時間は47分であったといわれている。

現在のリス村入り口付近に10日間ぐらいいたが、少女もこの山の上の象と、金華山ロープウェーに初めて乗った嬉しさが深く印象に残っていたのであろう。



休日には長蛇の列が出来る 金華山ロープウェー
(昭和48年頃)



新装成った 金華山ロープウェー
(平成4年3月)

(11) 岐阜市歴史博物館

岐阜市歴史博物館は市民が郷土の歴史と文化に親しみ、その知識と理解を深める生涯教育の場として昭和60年11月に岐阜公園に開館した。

館内には長良川の流域を先人が歩んだ生活の様子を紹介した常設コーナーや、年に数回色々なテーマにより催される特別コーナー、長良川の鵜飼に使われる実物大の舟や鵜籠などの用具一式を展示した鵜飼いコーナーなどがある。



歴史博物館全景

(12) 加藤栄三、東一記念美術館

岐阜市出身で日展を中心に創作活動を続け全国的に高い評価を受けている加藤栄三東一兄弟画伯の画業を顕彰すると共に地域の美術普及活動の充実、文化の振興を願い平成3年5月11日にオープンした。

当美術館は加藤兄弟画伯がこよなく愛しその作品にもよく描かれている長良川や金華山に隣接した岐阜公園内にある。しっくいの白壁と平板瓦の屋根は周囲の自然によくマッチしており、豊かな自然に包まれ美術を鑑賞する場として恵まれた環境にある。



美術館正面

(13) 母の塔（へそのお神社）

皇大神宮拝殿に母の塔が昭和32年10月25日建立された。

ユーモアクラブは市長松尾国松氏を名誉会長として徳川夢声、安田梅吉夫妻、山口シズエ、長崎抜天、磯野宮之進、上田三旺、奥村京一の各氏が“母は尊とし”（母の恩を忘れない様に）と母の塔を建てた。制作者は後藤久雄氏（岐阜市長良市職員）除幕式も落臘式（らくせいしき）と、あらおかし、ちゃんちやらおかしと名付けたお臘の形のまんじゅうをお供えして、型破りでユーモラスな落成式が行われた。

当日の新聞にも母の塔のユーモラスな落成式の状況を次ぎの様に報道した。

ユーモアクラブ岐阜支部提唱のへそのお母の塔除幕式が25日午後2時から岐阜公園千畳敷で行われた。

何分ユーモリストを自認するお歴々の催しだけに万事念が入っていた。除幕式も母の塔落臘式と名付け、まずクラブ日付役奥村京一氏の開会挨拶について大日本土木社長夫人女奉行安田いせさんの手で母の塔にかけられた白布が取り除かれると松尾国松会長により母は尊しと書かれた高さ4尺の台石の上に身の丈8尺のセメント製の母子像が現れ周囲から拍手が起きた。続いて宣伝奉行磯野宮之進氏の長男守男君（本郷小学校1年）がお父さんに抱っこされて月桂冠を像の首にかけ、神官姿の常任奉行上田三旺氏があらおかし、ちゃんちやらおかしを供えた祭壇の前で、へそのおくなくて、何ぞ人あらんやと祝詞を奏上、松尾国松会長や後藤久雄氏等に感謝状を贈呈。神官姿の徳川夢声の祭文朗読、松尾支部長等の玉串奉典、いずれも型破りの動作に雨をもいとわず集まった見物客も大喜び、終わりに長崎抜天作詞、出べそ福べそ笑いべそ横向き上向きへそまがり・・・と言った臘の歌を全員で合唱して、へそのおの菓子とお茶と一緒に振る舞い、めでたく閉式した。



母の塔除幕式（その一）



母の塔除幕式（その二）

(14) 中教院

中教院は神仏教導職の廃止で、明治17年9月に廃止されたが、神官建部志那雄氏（元大宮町在住）等が、私財を投じて再興し、大正7年には継子がこれらを市に提供した。

尚、この建造物は岐阜市西川手に移築され、現在も神道中教院としてその一部が残っている。（昭和31年に改築された）と言う一説と、自由党首脳の発案により板垣退助の生誕地、高知城下に移築されたと言う説があるが、何れも正否は不明である。



中教院（岐阜公園）道下 淳氏蔵



板垣退助 遭難の図（岐阜市歴史博物館蔵）

(15) 板垣退助の銅像

明治15年4月6日、自由党総理板垣退助は、岐阜公園中教院に於いて行われた農飛自由党の懇談会に出席し、演説を終わり玄関先に出たところを刺客に襲われ重傷を負った。「板垣死すとも自由は死せず」の言葉はあまりにも有名であり、被災した板垣退助氏を、中教院の門前にある傘職太田卯兵衛の家に引き入れて医師の治療や、手厚い介抱を行った。(現在の日本タクシー駐車場中央部付近)

刺客、相原尚聚(あいはら なおふみ)は、反自由党員 名古屋市東区生まれで、愛知県知多郡横須賀村の小学校の教員で、無期徒刑として、北海道石狩空地集治監に服役した。明治22年4月憲法発布の特赦により出獄、直ちに板垣退助を訪ねてその罪を謝し、再び北海道へ渡る事を決意し、四日市港から出港したが、その後行方不明となった。(航海中 海中に投身したという説もある。)

維新の元勲 板垣退助伯爵の遭難を遺憾とし、茲に岐阜公園ゆかりの地に銅像を建立し、憲政上不朽の史跡を後世に伝えるため、大正6年 男爵 後藤新平を発起人として、岡本太右衛門、大洞弥兵衛、渡辺甚吉、矢野嘉右衛門、山田永俊氏等40数名が発起人となり、県下有志者の尽力を得て建立し、大正7年4月21日盛大なる除幕式が挙行された。

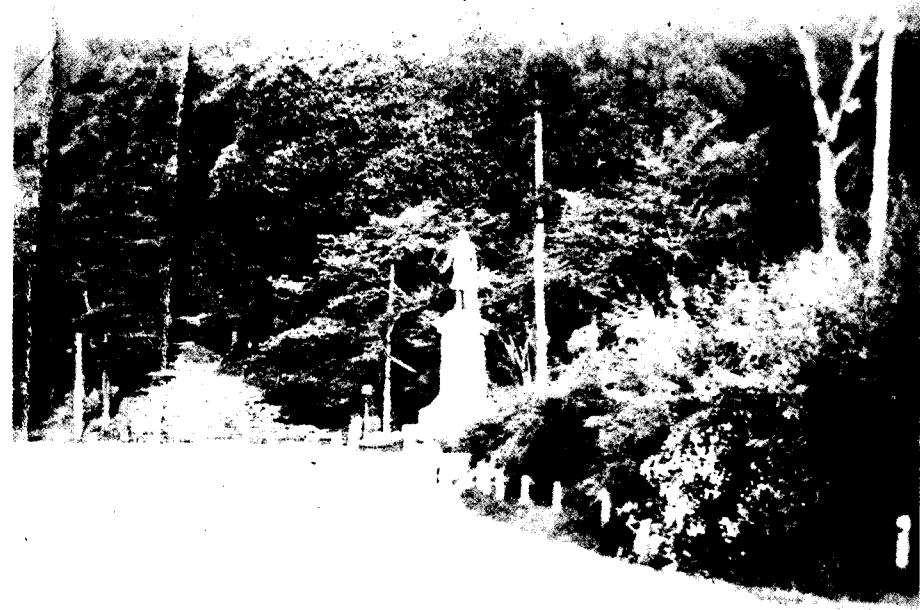
当時の(大正7年4月21日付)岐阜日々新聞では、除幕式の状況を次ぎの様に報じている。

昨春以来県下有志者の尽力に成れる、岐阜公園板垣伯遭難記念銅像は、愈々今21日を以って、老伯夫妻、令息等親しく臨場の上、盛大なる除幕式を挙行せらる。会場前には大縁門を設け、付近一帯溪流に沿へる茶亭まで電灯を増点し、国旗を連申し、且つ会場の周囲には、紅白だんだらの幟幕を張巡らす等……老伯一行は今朝午前9時33分養老発10時42分を以て岐阜駅に来着……官民有志者婦人会員等の出迎えを受け自動車にて……夫より午餐を喫したる後、同じく自動車にて公園会場に向ふべし除幕式の予定時刻は午後1時にして……次で午後3時より万松館に盛宴を張り、尚続いて発起人一同の老伯招待宴あり……会場外の余興としては煙火大会、六番踊りとその他各種の催しあり。青年学生相撲大会も、この日折よく開催さるる事とて伯又臨場せらるべく……今日の岐阜全市は、未曾有の人出を見る事ならん。美濃電鉄は市内車輛を増発して人出に備える……と一面全紙に華々しく報じられた。

昭和25年4月岐阜公園再整備計画により、現実に近い場所に移転する様要望が多く、現在地より北へ約100メートルのロープウェー上り口付近に移築された。

平成11年3月岐阜公園再整備計画により、大正7年4月建立された位置に再度移築された。

約30年程で2回も移築されたが、歴史を守るために今後の移築は慎重に行われたいものである。



板垣退助の銅像（大正7年建立）



板垣退助の銅像（昭和25年建立）

(16) 長良橋

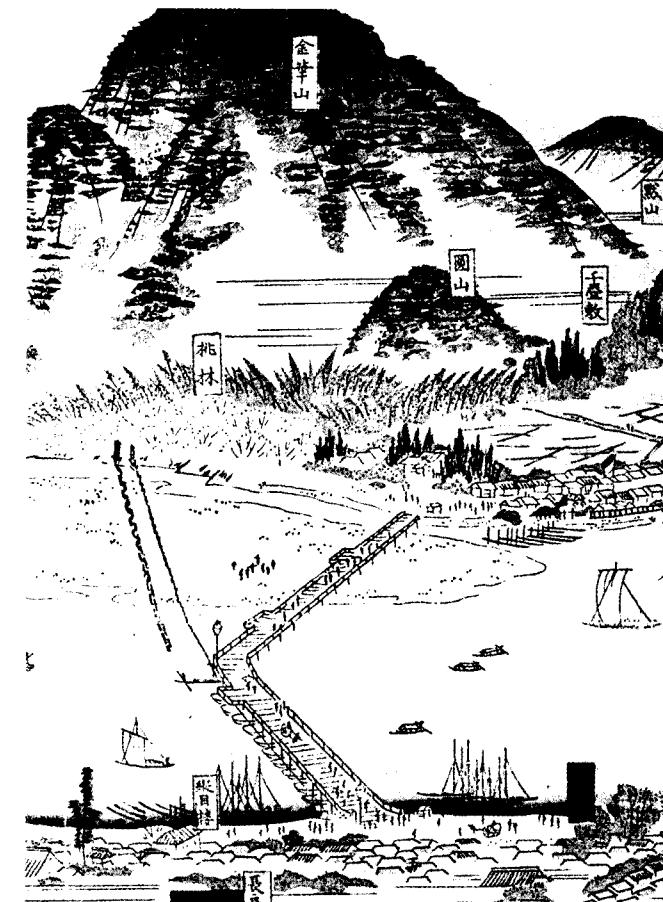
岐阜の町と長良川北地区との交通を便利にするため、長良川の渡しから明治7年、舟の上に渡り板を並べた明七橋と呼ばれる舟橋に変わってきた。この橋は会社経営の有料橋で（人4厘、人力車1銭4厘）利用者も多く繁盛したが、明治17年5月に長良橋（木橋）が完成した。長さ284メートル、幅3.6メートルで有料橋であったが、明治26年の水害等増水の際、流れて来た材木が橋脚に引っ掛け水圧で流失した。

大正4年5月工費17万2千円でプラットトラス式の鉄橋長さ273メートル、幅5メートルの新長良橋が完成した。橋の銀ネズミ色が金華山の緑、長良川の青とよく調和して近在からの人出で大変な賑わいだった。

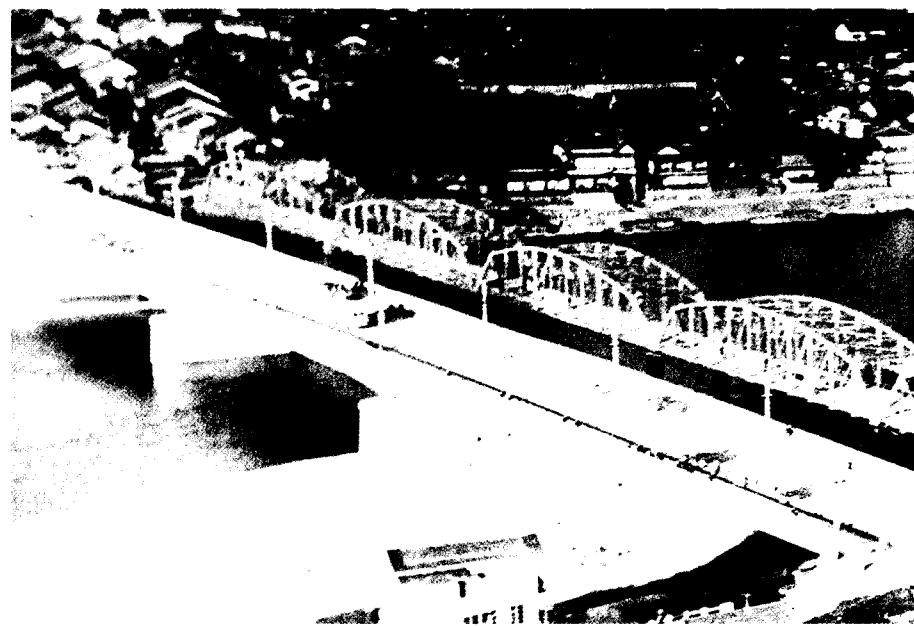
大正5年頃自動車は乗用車が2台で、荷馬車や荷車が2757台もあったので、木橋時代のネックになっていた朝夕の渋滞が、新橋の誕生により解決した。

この木橋の廃材を利用して金華山岐阜城（模擬城）と岐阜公園三重の塔が立てられた。岐阜市の中心部と川北地区を結ぶ大動脈の長良橋も、交通が激しい上に太平洋戦争中の事でもあり、修理不十分で大型車両が通過するたびにガタガタ振動して危険な状態でシロホン橋とあだ名が付けられていた。

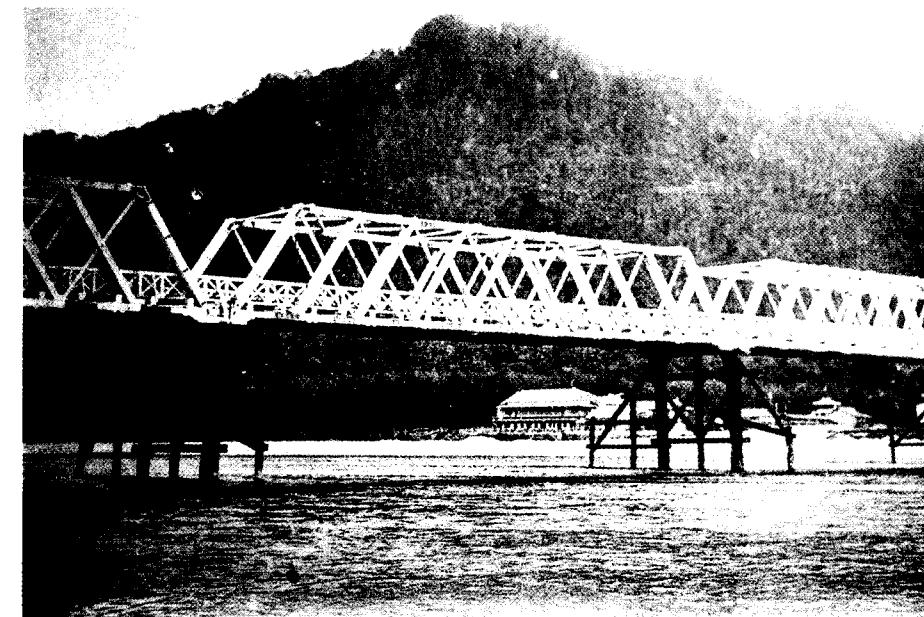
昭和29年12月現在の長良橋が完成したが、取り付け道路の問題等地元の反対で使用開始が大幅に遅れた事も災いして、危険な旧橋を利用しなければならない状態であったが、昭和31年11月早朝、県の強制執行によりようやく全面開通した。



明七橋（長良橋）（歴史博物館蔵の部分拡大）



新旧並行した長良橋（昭和31年頃 道下淳氏蔵）



木造の長良橋（明治17年5月完工）



岐阜 長良橋渡橋式之實況
(六夫婦渡初の光景)



“シロホン橋”の異名



現在の長良橋全景

(17) 金華小学校

金華小学校の前身富茂登小学校は、長良橋上流の左岸に、明治6年2月金華山麓の大竹藪を切り開いて有道義校が開校された。同13年富茂登小学校、同19年富茂登尋常小学校と校名が変わった。

同じ頃、米屋町の旧尾州藩岐阜奉行所の建物を仮校舎として大観舎が開校した。明治7年4月に二階建ての南舎、北舎を新築し、南舎を金華学校（男子）北舎を伊奈波学校（女子）と改称した。明治11年7月両校を纏めて岐阜学校と改称。同19年岐阜尋常小学校と改称。同43年4月米屋町の岐阜尋常小学校に湊町の富茂登尋常小学校を合併し、大工町に移転した。

大正14年4月 金華尋常高等小学校と改称

昭和16年4月 金華国民学校と改称

昭和22年4月 金華小学校と改称

児童数

明治7年	457名	（大観舎系）
明治24年	680名	
明治27年	713名	
“30年	550名	
“43年	1189名	（大観舎と富茂登合併）
大正9年	1765名	
13年	1862名	
昭和3年	1587名	
10年	1884名	
18年	1799名	
20年	1924名	
35年	1266名	
42年	986名	
49年	799名	
60年	509名	
平成2年	392名	
7年	321名	
11年	298名	



中舎竣工 大正13年2月14日

金華小学校の変遷については、金華小百年、創立120周年記念誌等最近発行された資料に残されている。岐阜市発祥の地として児童数の変遷でわかる通り、大観舎開校以来増加の一途を辿り、昭和30年頃までは岐阜市の中心部として自負出来た時代であったが、同36年頃より減少傾向に転じ、同42年にはついに千名を切り、平成11年ついに300名を割り込み、非常事態となっている。岐阜市の中心地が金華から南部地区や北部地区へ移動している事がよくわかる。

岐阜市立金華保育所についても、ついに京町と統合し、廃所されてしまった。
一部には小学校においても隣接の校区と統合のうわさも最近出ている。
富茂登小学校の跡地の一部石垣が現在も残っており、見る事が出来る。
当時の校舎は、長良川を往来する舟の中や対岸からも一望することが出来た。

富茂登小学校が岐阜尋常小学校と合併した後、この校舎は鳶谷に移築され、岐阜商工会議所として活躍した。

大正の後期から昭和の前期にかけて少年野球チームの活躍が目覚ましく、県大会、全国大会に岐阜県代表としてすばらしい成果を収めている。

大正12年には全国少年野球大会 予選に優勝

大正13年 日本少年野球 岐阜予選尋常科 優勝

14年 大毎主催 少年野球大会 寻常科 優勝

昭和3年 全国少年野球大会 神宮球場に出場

4年 同 大阪藤井寺球場

5年 同 京都岡崎公園球場 等

岐阜県の代表として大活躍、名門金華小の名を天下に轟かせたのである。

その他陸上競技、角力、剣道、などすべての運動に大活躍し、教育のすべての分野で時代の尖端を行く指導が行われた。

一方、健康を維持出来なければ活躍は不可能であると、身体の弱い子供の為に岐阜公園で林間学校聚落が開校され、健康管理が行われた。

この林間学校は、大変評判がよく希望者全員を収容しきれないため、各小学校ごとに夏季学校聚楽を行った。

パンツ一つになって日光浴をしたり、偏食の子供が大変多く献立を工夫して偏食を直す指導をしたり、廊下や木陰で昼寝をする。昼寝が済むと長良川でみんな一緒に水泳をし、水泳のあと検温をして簡単な掃除を済ませ帰宅するのが一日の行事。また所定の行事の他、犬山や谷汲山へ一日かかりで遠足にいったり野外での生活が多いいため真っ黒に日焼けして夏季学校聚落を終了し、虚弱児童が見違える様な姿に変身し、胸を張って身体検査を受けたものである。



長良川から見た富茂登学校 明治30年ころ
(岐阜市歴史博物館蔵)



富茂登小学校の校舎

5. 私達の思いで

(1) かんかばあ

町内の若嫁さんにとって大変重要な人物であり、現在の人生相談窓口の様な存在であった。姑女のぐちを聞いたり、悩み事の良き相談者として何でも気軽に話相手になって慰め励まして呉れる大変人気が良い髪結いのおばあさんの事を皆が“かんかばあ”と呼んで頼りにしていた。此のばあさんの結った髪は、何時迄も崩れる事なく長持ちする事も定評であった。代金も有るとき払いの催促なしで、その上廉価でよろこばれた。

「おなごは何時も身ぎれいにしとらんと婿に浮気されるぞ」とご意見をしつつ、器用に梳く髪は美しい髪形に変身して行く。何時迄も私たちの守り神として長生きしてねと、かんかばあの髪床屋は人勢の常連の憩いの場として繁盛していた。

(2) 金華山は燃料とおやつの宝庫

戦時中物資不足の折り、金華山は燃料の宝庫であり大変重宝した。

枯れ枝取りや、まつごかきは子供の役で、学校から帰るとその足で山へ出掛け、競争で薪になる物をかき集めた。特に倒木を見付けると急いで仲間に連絡し、ガンド鋸を持って行き、一人は見張り役に着き、持ち歩き出来る程度の長さに切断して大急ぎで持ち帰ったものでした。運が悪いと巡回中の警官に捕まり油を絞られたが、仲間の名前は絶対出さない事が鉄則であった。

又椎の実、むくの実、桐の実等山の幸は、子供達の絶好のオヤツとして好まれ、その季節にはどの子供も木の実でポケットを一杯に膨らませていた。

(3) もみじや

顔はちょっと怖い感じのおばさんだけど、子供には人気があり、小づかいを使い過ぎて駄菓子の買えない子供には注意を与えながらお菓子をそっと呉れたり、髪の毛の伸びた子供を見つけると裏の小部屋で頭を刈って呉れる優しいおばさんであった。店にはラムネやサイダーが冷やしており、時にはちょっと一杯のコップ酒にも応じてくれる店で、荷物を一杯積んだ荷車を引いてやっと坂道を登り切り、此處で一服してまた北へ帰る常連の客や、原木を満載した馬車には、公園前から長良橋への坂道は難所の一つであった。馬はヒズメを滑らせて思う様にすすめない。馬方の知恵で電車のレールの間の敷石の透き間を利用して一気に追い上げて坂を登り、馬はカイバを貰い馬方はもみじやでラムネを飲んで一服してまた出掛けて行く。狭い店内に客の切れ間も無い程人気の店であった。

(4) キューバ糖

戦後の救援物資の一つにキューバ糖があった。

子供達の楽しみはカルメ焼で、母から一匙ずつのキューバ糖をもらいオシャモジの中で焼いてかきまわし、チャンスをみてタンサンを加えてかき回しつつ火を切ると、ふっくらとしたカルメ焼が出来上がる。なかなかうまく出来ず何度もキューバ糖を取りに行って叱られたものである。

(5) 紙芝居

紙芝居のおじさんは傷痍軍人で、義足を引きずり今日も拍子木を鳴らしながらやって来た。月光仮面の昨日の続きは？と3円（昭和25年頃）を握り締め、何時もの場所へ急ぎ、串につけたいも飴を買う。

おじさんの笛の合図で串の飴を練る。次ぎの合図で一せいに上げると白く練り上がった飴を見て、褒美のえびせんべいをつけて呉れる。その飴をしゃぶりつつおじさんの名調子に乗せられて月光仮面の活躍に胸をおどらせる。

小遣いを使い過ぎて3円の出資の出来ない者にも明日の出資を約束して後ろの方からの見物を許して呉れる優しさが子供達の人気の一つでもあった。

(6) 八百屋の惣ざ

八百屋の惣ざが大八車に食料品を満載して「エー、エー」と到着の挨拶をして回る。車の周囲は待ち構えていた常連が一杯に取り巻き好みのものを買い求めて行く。

商売が済むと子供達が帰り道の長良橋まで坂道を後押しして手伝い、駄賃を貰う事も楽しみであった。

(7) 空襲警報避難

空襲警報の時は、納涼台を通って日野方面へ避難する事が通例になって居り、懐中電灯も禁止された暗闇の中を逃げ回ったものだった。鉄材の供出で欄干の無い用水路へ、はまり込む人も少なく無かった。

(8) 岐阜公園の駄菓子屋さん

80歳を過ぎた塚原のおばさん、大雨大雪を除いては毎日リヤカーに一杯の駄菓子を積んで、小柄な体で力一杯自転車を漕ぎやって来る。

子供が喜んで呉れるのが楽しみで何歳になっても体の続く限り私は来ると岐阜公園の名物になっていたが、平成11年5月岐阜公園再整備を境に姿を消した。

(9) ロボット水門が無くなる？

日時ははっきりした記憶はないが、多分昭和63年秋頃だったと思う。

私たちの少年時代ロボット水門は、夏になれば絶好の水泳場として楽しんだ事は忘れない。また最近はコミュニティ水路として改修され、第一期工事完成祝いを済ませたばかりであり、金華街づくり協議会で金華の名所百選の1つとしても選ばれた有名な場所が、突然解体され始めた。ビックリして作業の中止と地元に対する工事内容説明を市役所河川課に求めた処、ちょっと改修するだけですとすました顔で居たので、当時の金華校×各種団体役員が役所へ乗り込み説明を求めた。

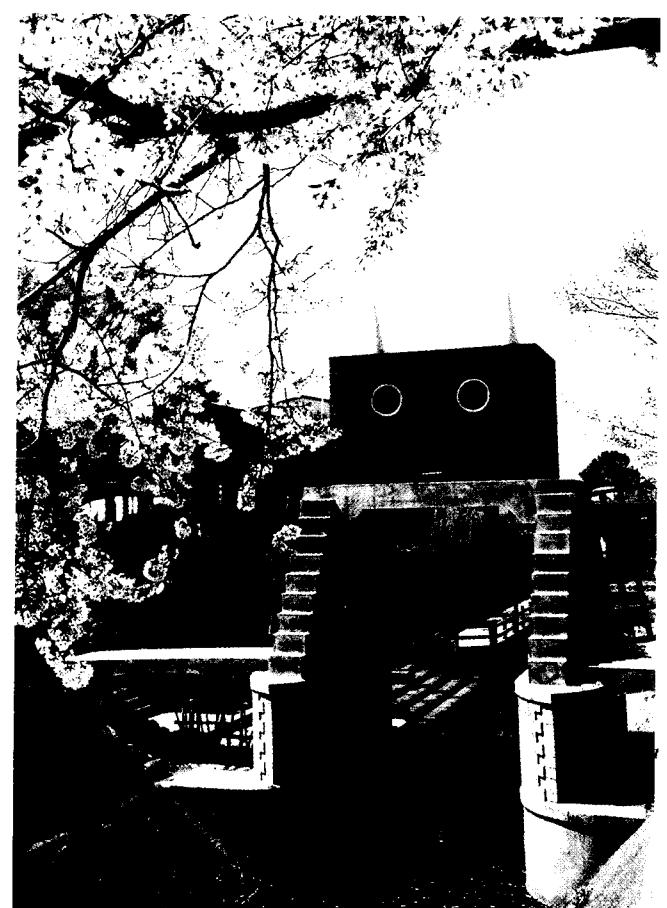
役所関係者は恐縮し、地元の人々の愛着を感じる貴重な建造物を勝手に解体した事を平謝りして早期復元を約束した。

実はチェン式水門操作機構の老朽化に伴いシャフト式操作機構への改修工事で、大急

ぎで工事が進行されたが、結果は角の生えた鬼の様な姿に変身してしまいガッカリしている。



工事中のロボット水門（昭和63年）



再整備されたロボット水門（平成元年）

(10) 躍進日本大博覧会

昭和11年3月25日から5月15日まで52日間にわたり躍進日本大博覧会が、岐阜公園と長良川畔一帯を会場として開かれた。総入場者193万2千人と大盛況で商工業界は大いに潤った。

一番の人気はテスト中のテレビジョンの公開で、御手洗池付近の近代科学館から出されるテレビ電波を観光館前で（現在の護国神社境内）受像するものでポンヤリと写った画面に拍手を贈っていた。（当時はまだ護国神社は無かった）

ドイツ人による人間大砲や三重の塔で行われた高野山の特別御開帳、水族館の海の魚や、大きな水槽の中で泳ぐ海女たちにも人気が集まり、休日には長蛇の列が出来る程賑わった。入場料は大人35銭、子供15銭の他、各館で観覧料が取られ、高すぎると苦情が出た。そのほか忠節用水路を利用して鵜飼いの実演も行われ鵜飼いを知らない人たちに喜ばれた。

(11) 金華山トンネル計画 大宮町一丁目は反対

昭和58年ころ金華校下広報会連合会の会議の席上、後藤会長より長良川リバーサイドウェー計画が発表され、金華山にトンネルを掘る事が提案された。理由は納涼台付近の環境保護のためと説明され、あまり討議される事なく多数決で可決された。

町内では

1. 神聖なる金華山に穴を明ける事自体、許す事は出来ない。
2. 納涼台の2、3本の雑木の保護のため金華山の国有林は犠牲になんても良いか
3. 岐阜公園の自然破壊と排気公害のため、トンネル出入り口付近の樹木に対する影響は考慮されたか。
4. 隣接の町内との交流の断絶等々、今思い付くデメリットだけでも心配が多く簡単に賛成しては危険であるので充分時間を掛けて検討を要す。

と反対意見を主張したが、再考される事なく多数決で決定し、反対意見は受け入れられなかった。

平成12年現在、金華山も立ち枯れが多く、観光地の山林として恥ずかしい状態を表しているが、これもトンネルの影響ではないかと思われる。

(12) 岐阜市巡覧唱歌

明治42年3月30日発行 岐阜市教育会編集

作者 国文学者 小森松風 摂斐郡富秋村古川（現大野町）

作者小森松風は、当時の岐阜市教育会長、勅使河原簿の友人であり、製作を依頼されたものである。

1番から42番まで構成されて居り、岐阜市全体が歌い込まれているが金華校区は20番から33番に、尚、大宮町一丁目付近は24番から27番に下記の通り記されている。

1. 山は緑に水清く 歴史に地理に昔より

世に聞こえたる岐阜の市 遊び巡らん打つれて

24. 流れに臨める金華山 尾の上に残る礎の

栄枯盛衰数百年 松風長久に咽ぶなり

25. 山の麓は岐阜公園 青草辯と抜りて

蝶々花に舞うところ 名和氏の昆虫研究所

26. 墓かがやく武徳殿 千骨敷はその上よ

中教院の境内に 板垣伯の遭難地

27. 彼所の丘には白華庵 その下道を火葬場の

左にとれば七曲り 金華登山の本道ぞ

42. 嬉しや之れにて一旦り 名所巡りも終りたり

街は二百余で四万 愈々榮えよ岐阜の町市

（岐阜市安良田町 堀江倉吉氏蔵）

(13) 大岩石何処から来たの？

岐阜公園内金華茶屋（佐野亮店）の東の大岩石は、昔、岐阜城信長館の石垣の一つであったが、加納への移築の時運搬の良い方法が浮かばず、当時の名和昆虫研究所の庭園に一時移動させてあった。昭和59年岐阜市歴史博物館の建設に伴い、この大岩石の利用方法が無く、公園へまた逆戻りしたもので、当時の方法としてはコロを使う工法で、やっと現在地まで移動したが後はどうする事も出来ず、ついにあの地に居すこととなったそうな。嘘の様な本当の話。

(14) チンチン電車（岐阜市内電車）

朝5時になると長良橋発の電車がガッタン、ゴットンと坂道を車輪をきしませながら走ってくる。市電長良橋線の1番である。

冬場の5時はまだ暗く、もう一度寝床の中へ潜り込む。しかし電車の車輪の音が小さい時は要注意、雪のため響かない時が多い。

明治44年2月岐阜駅前から今小町まで開通以後、明治44年7月本町まで延長され、大正元年には長良橋まで到達させた。大正4年11月長良橋が完了したので長良北町まで延長し、長良軽便鉄道の長良北町～高富間と待望の接続がはたされた。

戦争中から戦後、戦災復興まで市民の重要な輸送基盤としておおきな力を發揮したが、日本経済の発展と共に急速なモータリゼーションの波が押し寄せ、日本各地で路面電車の廃止の声が高くなり、昭和42年岐阜市議会に於いても撤廃を決議され、徹明町以北の長良橋線はその姿を消した。

廃線前一週間程さよなら電車が運転され、愛用者達が別れを惜しみ最終電車を涙を浮かべながら見送っていた。



長良橋通りを走る市電



サヨナラ電車

大宮町一丁目史誌編集を終えて

編集委員代表 吉田 尚弘

平成元年、自治会設立40周年を迎えるに当たり、記念事業として金華史誌の刊行が提案され、自治連合会総会出席者全員の賛同を得て、編集委員会が設立されました。

これと前後して大宮町一丁目に於いても町史の発行の提言が出始め、岩田 晃氏、鷹森二郎氏等が主体となって町史の作成が始まりましたが、中心の岩田氏の病状が悪化し入院されてしまいました。続いて鷹森氏も体調を崩されて入院、小生は金華史誌の編集に多忙を極め、町史の編集作業も一時中止の止む無き状態となってしまいました。

平成8年6月、岐阜市都市計画岐阜公園再整備計画に基づき大宮町一丁目全体の立ち退き要請がありました。

明治22年7月に岐阜市大宮町が誕生して以来、東に金華山北に清流長良川を有し、岐阜公園を我が庭として景観にも優れた人情の厚い、住み良い此の地を遠い祖先が安住の地として定め、住民各位が相互の親交を保ち、永年住み着いた最愛の我が故郷から離れる気持ちにはなれません。このような事情をふまえて、町民各位の追憶をこの史誌に記し、後世に残す事を念願し、大宮町一丁目史誌を発行する必要性が再認識されました。さて机に向かって見ると書き残したい事ばかりです。先ず原稿の募集から始めました。この話の確信を得るために連日図書館へ通い続けたり、歴史博物館の学芸員先生に御指導を仰いだり、学識経験者にお知恵拝借したり、人の迷惑を考えず早朝よりお邪魔してご協力を賜り、やっとここまで纏めました。永年撮り集めた写真をふんだんに活用し、視る史誌として皆様に御熟読願えれば幸いに存じます。

末筆ながら骨身惜しまずのご協力を賜りました諸先生方を始め、貴重な資料を提供賜りました皆様方に厚く御礼申し上げまして、刊行のご挨拶に変えさせて頂きます。

大宮町一丁目誌史編集にご指導、ご協力を賜った方々

(順不同 敬称略)

岐阜市歴史博物館

道下 淳 岐阜県郷土資料研究協議会幹事 元岐阜女子大学講師
加納 宏幸 岐阜県歴史資料保存協会会长 元岐阜城副館長
筧 真理子 岐阜市歴史博物館 学芸員
林 竜馬 武徳殿写真提供
天理教岐美大教会 岐阜市立金華小学校 金華山ロープウエー
五百木一雄（万松館） 名和昆虫研究所

発行日 平成12年12月
発行者 岐阜市大宮町一丁目自治会
印刷所 (株)岐阜文芸社